Focusrite®

Scarlett 4i4 第 4 世代ユーザーガイド

目次

概要

はじめに

Scarlett 4i4 第 4 世代へようこそ。

Scarlett 4i4 は、絶えず創作に挑むアーティストのために作られた製品です。最新世代の Scarlett で、どこでもお好きな場所でスタジオ品質のサウンドでのレコーディングをお楽しみください。

- +69dB の**ゲイン**を各入力に備え、あらゆるマイクやギターの性能を最大限に引き出します。
- レベル設定はわずか数秒で完了でき、**オートゲイン**や**クリップセーフ**機能を使えば、常に演奏を最高の音質で録音できます。
- 再設計された Air モード（Presence および Harmonic Drive）。
- Focusrite Control 2 ソフトウェアからプリアンプをリモートコントロール。
- イージースタートのほか、音楽制作に必要となるスタジオソフトウェアがすべて付属し、すぐにレコーディングが開始できます。
- 5 ピン DIN **MIDI** 入出力を備え、お使いの MIDI コントローラーやシンセサイザーとシームレスに連携します。

内容物

Scarlett 4i4 には以下の同梱物が含まれます。

- Scarlett 4i4
- USB-C to C cable
- USB-A（オス）- USB-C（メス）アダプタ
- Getting Started（梱包箱蓋内部に記載）
- 安全に関する情報ガイド
- Power adapter (USB-C, 5V, 3A, 15W)

システム要件

お使いのコンピュータのオペレーティングシステム（OS）が Scarlett 4i4 に対応しているかを確認するには、ヘルプセンターの互換リストをご参照ください。

Focusrite ヘルプセンター：互換性

互換性リストは、OS の新バージョンのリリースに応じて随時更新され、ヘルプセンターにてご確認いただけます。

support.focusrite.com

ソフトウェアシステム要件

Focusrite Control 2 がお使いのコンピュータのオペレーティングシステム（OS）に対応しているかを確認するには、ヘルプセンターの互換リストをご参照ください。

Focusrite ヘルプセンター：互換性

互換性リストは、Focusrite Control 2 または OS の新バージョンのリリースに応じて随時更新され、ヘルプセンターにてご確認いただけます。

support.focusrite.com

使用を開始する

Scarlett の電源を投入

バスパワーを使用して Scarlett 4i4 の電源を投入するには：

- コンピュータと Scarlett 4i4 を USB ケーブルで接続します。

電源アダプターを使用して Scarlett 4i4 の電源を投入するには：

1. Scarlett 4i4 の電源ソケットに電源アダプターを接続します。
2. コンピュータと Scarlett 4i4 を USB ケーブルで接続します。

電源が投入され、Scarlett が使用可能になります。

イージースタート

イージースタートは、Scarlett を手順に沿ってセットアップし、Scarlett の使用用途に応じてパーソナライズされたチュートリアルのリストを作成できるオンラインツールです。また、Scarlett の製品登録やバンドルソフトウェアのダウンロードなども行えます。

Windows または Mac に Scarlett を接続すると、本体が USB ドライブのような大容量記憶装置 (MSD) としてマウントされます。ドライブを開き、「Scarlett - Getting Started.html」をダブルクリックします。「Get Started」をクリックすると、イージースタートがウェブブラウザで開かれます。

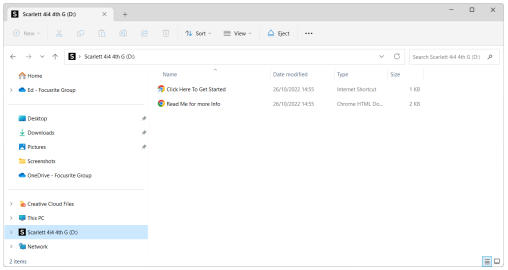
画面の指示に従い必要なソフトウェアをインストールし、Scarlett を使用する準備を行います。

Windows

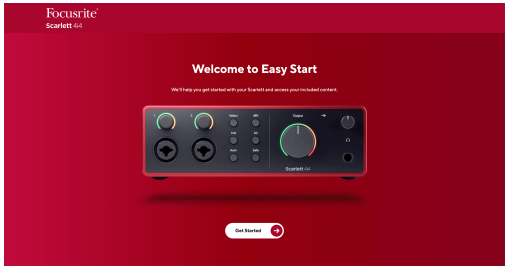
Scarlett 4i4 をコンピュータに接続すると、エクスプローラーに「Scarlett 4i4 4th Gen」というドライブが表示されます。イージースタートはこのドライブから起動できます。

イージースタートを起動するには：

1. エクスプローラーを開きます。
2. Scarlett 4i4 4th Gen (D:)を開きます。ドライブレターは、お使いの環境によって異なる場合があります。



3. Click Here to Get Started をダブルクリックします。Focusrite ウェブサイトが開くので、製品登録を行うことをお勧めします。



4. Get Started をクリックすると、Scarlett の使い方に応じたセットアップ手順が表示されます。

セットアップの際に、Focusrite Control 2 がインストールされます。インストールされた Focusrite Control 2 を起動し、「Update Scarlett 4i4」をクリックします。Focusrite Control 2 のアップデート中は、Scarlett をコンピュータから切断しないでください。Focusrite Control 2 のアップデートが完了すると、Scarlett はストレージデバイスとしてコンピュータに認識されなくなります。

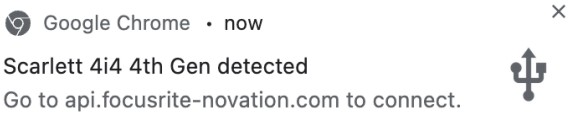
オペレーティングシステムにて、Scarlett をコンピュータの規定のオーディオ入出力デバイスとして設定する必要があります。

確認方法：Windows タスクバーのスピーカーアイコンを右クリックし、再生デバイスで Scarlett が選択されているかを確認します。

Mac

Scarlett 4i4 をコンピュータに接続すると、デスクトップに Scarlett アイコンが表示されます。Chrome をお使いの場合は、以下のポップアップが表示されます。

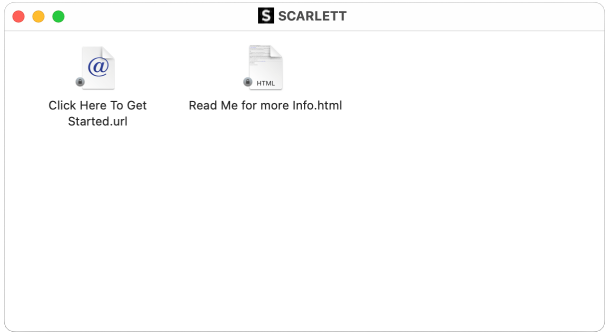
Scarlett イージースタートアイコン : ダブルクリックしてイージースタートを開始 (手順 1)



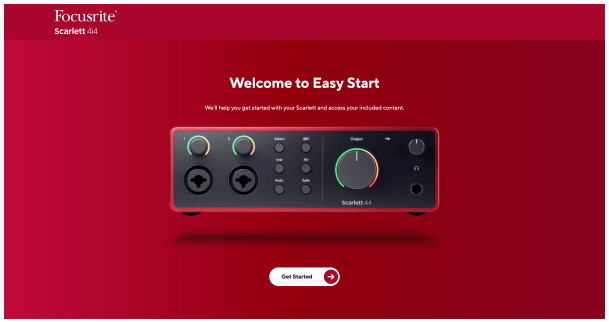
Chrome のポップアップ : クリックしてイージースタートを開始 (手順 2)

イージースタートを起動するには：

1. アイコンをダブルクリックすると、以下の Finder ウインドウが開きます。



2. Click Here to Get Started をダブルクリックします。Focusrite ウェブサイトが開くので、製品登録を行うことをお勧めします。



3. Get Started をクリックすると、Scarlett の使い方に応じたセットアップ手順が表示されます。

セットアップの際に、Focusrite Control 2 がインストールされます。インストールされた Focusrite Control 2 を起動し、「Update Scarlett 4i4」をクリックします。Focusrite Control 2 のアップデート中は、Scarlett をコンピュータから切断しないでください。Focusrite Control 2 のアップデートが完了すると、Scarlett はストレージデバイスとしてコンピュータに認識されなくなります。

オペレーティングシステムにて、Scarlett をコンピュータの規定のオーディオ入出力デバイスとして設定する必要があります。

確認方法：システム環境設定 > サウンドを開き、再生デバイスで Scarlett 4i4 が選択されていることを確認します。

すべてのユーザー

ドライブ内にある 2 つ目のファイル「More Info and FAQs」を開くと、セットアップで問題が生じた際に役立つ様々な情報にアクセスできます。

製品登録を行うと、以下のリソースにアクセス可能になります。

- Focusrite Control 2 (Mac/Windows 版) - 下記の解説をご参照ください。
- 各国語版ユーザーガイド - downloads.focusrite.com からもダウンロード可能
- 付属のバンドルソフトウェアおよびライセンスコードへのリンク (Focusrite アカウント内) Scarlett 4i4 付属のバンドルソフトウェアに関する詳細は、Focusrite ウェブサイト (focusrite.com/scarlett) をご参照ください。

Focusrite Control 2 について

Focusrite Control 2 は、Scarlett インターフェースをコントロールするためのソフトウェアです。

Focusrite Control 2 アイコン

Focusrite は、お客様が Scarlett を最大限に活用いただけるよう、新機能の追加や改善を施す Scarlett 4i4 のアップデートを臨時提供しています。Scarlett 4i4 のファームウェアは、Focusrite Control 2 からアップデート可能です。

Focusrite Control 2 を使うと、お使いのモデルに応じて Scarlett の様々な機能をコンピュータからコントロールできます。

注記

Focusrite Control 2 は主要な読み上げソフトウェアに対応しており、Scarlett の各機能のコントロールが可能です。

Focusrite Control 2 のインストール

あなたはウィンドウズと Mac にインストール Focusrite Control 2 することができます。 ダウンロードしてインストール Focusrite Control 2 するには:

1. フォーカスライトのダウンロードウェブサイトに移動します。 focusrite.com/downloads
2. ダウンロード Web サイトであなた Scarlett を見つけてください。
3. お使いのオペレーティングシステム(Windows または Mac)用にダウンロード Focusrite Control 2 してください。
4. コンピューターのダウンロードフォルダーを開き、Focusrite Control 2 インストーラーをダブルクリックします。
5. 画面の指示に従ってインストール Focusrite Control 2 します。 Windows 用にインストール Focusrite Control 2 する場合は、コンピュータが再起動します。
6. まだ接続していない場合は、インターフェイスを USB ケーブルでコンピューターに接続します Scarlett 。
7. Focusrite Control 2 を起動すると、Scarlett が自動的に認識されます。

注記

Windows で Focusrite Control 2 をインストールすると、ドライバーも同時にインストールされます。Focusrite Control 2 は、製品登録を行っていない場合でも、downloads.focusrite.com からダウンロード可能です。macOS で本製品を使用する場合はドライバーは不要で、Focusrite Control 2 のインストールのみ必要となります。

手動による製品登録

Scarlett の製品登録を後日行う場合は、customer.focusrite.com/register から登録可能です。

その場合はシリアル番号を手動で入力する必要があります。シリアル番号はインターフェースの底面（下側の白い数字）、または梱包箱のバーコードラベルに記載されています。

使用を開始する際は、Focusrite Control 2 のダウンロードをお勧めします。Focusrite Control 2 を起動すると、イージースタートモードが無効になり、Scarlett 4i4 のすべての機能が有効になります。

イージースタートモードでは、サンプルレートが最大 48kHz に制限されています。Focusrite Control 2 をインストールすることで、最大 192kHz の性能を最大限に活用できます。

イージースタート有効時は、MIDI 入出力も無効となります。

Focusrite Control 2 は、downloads.focusrite.com からいつでもダウンロード可能です。

イージースタートを無効にする

イージースタートによるセットアップ完了後、Focusrite Control 2 をインストールして起動すると、Scarlett のイージースタートモードは自動的に無効になります。

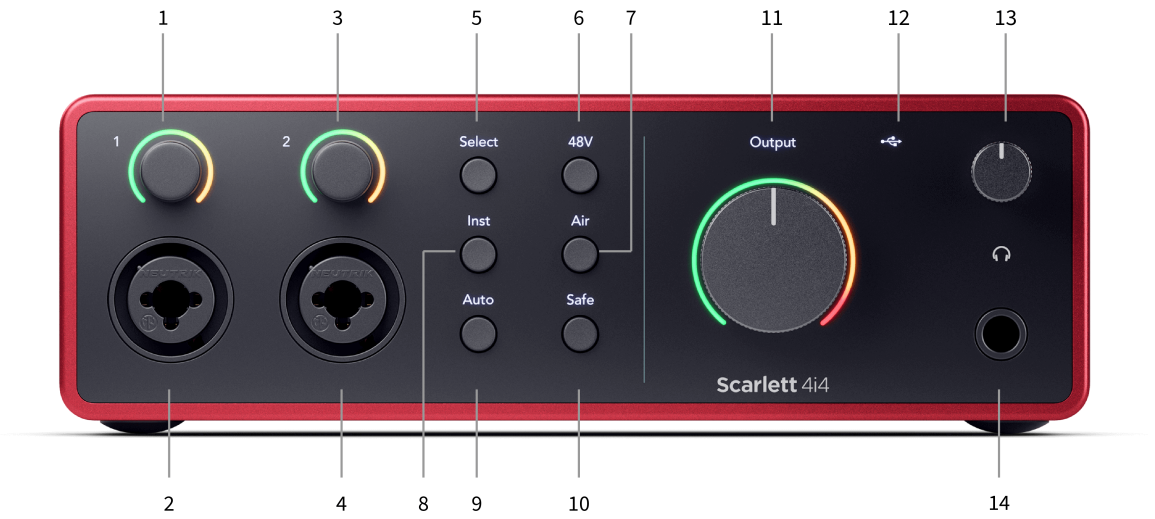
Scarlett 4i4 のイージースタートモードが無効にならない、または Focusrite Control 2 をインストールせずにイージースタートモードを無効したい場合は、以下の手順に従ってください。

1. Scarlett 4i4 の電源をオフにします。
2. **48V** ボタンを押し続けます。
3. **48V** ボタンを押したまま Scarlett 4i4 の電源をオンにします。
4. フロントパネルが点灯したことを確認し、**48V** ボタンを離します。
5. Scarlett 4i4 を再起動します（電源をオフにしたあと再びオンする）。

以上でイージースタートモードは無効になります。

各部の名称と特徴

フロントパネル



1. 入力 **1** ゲインコントロールおよびゲイン Halo - ゲインコントロールは、ジャック入力 1 または XLR マイク入力 1 の入力レベルを設定します。ゲイン Halo は、入力レベルとプリアンプのゲインレベルを表示します。
2. 入力 **1** Neutrik® コンボ XLR および 6.35mm (1/4 インチ) ジャックコネクタ。XLR マイクレベル入力、またはアンバランスモノラル (TS) およびバランスモノラル (TRS) 1/4 インチジャックケーブルによるライン/楽器レベル入力に対応します。
3. 入力 **2** ゲインコントロールおよびゲイン Halo - ゲインコントロールは、ジャック入力 2 または XLR マイク入力 2 の入力レベルを設定します。ゲイン Halo は、入力レベルとプリアンプのゲインレベルを表示します。
4. 入力 **2** Neutrik® コンボ XLR および 6.35mm (1/4 インチ) ジャックコネクタ。XLR マイクレベル入力、またはアンバランスモノラル (TS) およびバランスモノラル (TRS) 1/4 インチジャックケーブルによるライン/楽器レベル入力に対応します。
5. **Select** ボタン - 選択するプリアンプを切り替えることができます。他のボタンで選択中のプリアンプの設定を変更できます。選択中の入力チャンネルの番号は緑色に点灯します。
6. **48V** ボタン - コンデンサーマイクに電源を供給するための XLR マイク入力の 48V ファンタム電源を有効にします。
   48V のオン/オフは、プリアンプチャンネル毎に個別に設定できます。
7. **Air** ボタン - AIR モードを有効にします (AIR のページ参照)。
8. **Inst** ボタン - 選択中の 6.35mm (1/4 インチ) 入力ジャックの信号レベルを、ラインまたはインストゥルメントレベルに切り替えます。
9. **Auto** ボタン - オートゲイン機能を開始します (オートゲインのページ参照)。
10. **Safe** ボタン - 選択中の入力でクリップセーフ機能を有効にします (クリップセーフのページ参照)。
11. メインスピーカー出力レベルコントロール **Output** および出力レベルメーター - デフォルトでは、Output ノブで Outputs 1 および Outputs 2 の出力レベルを調整できます。メーターは出力レベルを表示します。**Output** ノブを調整することで、出力 **1-2** をコントロールできます。
12. USB LED - インターフェースがコンピュータに認識されると、緑色に点灯します。接続されているにもかかわらず認識されない場合は、白色に点灯します。
13. ヘッドフォンレベルコントロール - ヘッドフォン出力レベルを調整します。
14. ヘッドフォン出力ソケット - TRS 6.35mm (1/4 インチ) ジャックコネクタでヘッドフォンを接続します。

リアパネル

1. 🔒 - ケンジントンロック。Scarlett を固定し、盗難から守ります。
2. **5V DC** - Scarlett 4i4 に電源を供給するためのオプションの USB-C コネクタ。コンピュータが 1.5A の USB-C 電源を Scarlett 4i4 に供給できない場合に使用します。
3. **USB** - Scarlett とコンピュータを接続するための USB-C コネクタ。
4. **ミディ 外** そして **で** - 外部 MIDI 機器用の標準 5 ピン DIN ソケット。の Scarlett 4i4 MIDI インターフェースとして機能し、コンピューターとの間で MIDI データをやり取りできるようになります。
5. ライン出力 **Outputs 1 ~ 4** - Scarlett をスピーカーまたはアンプ、ミキサー、外部プロセッサーなどのラインレベル入力に接続するための 1/4 インチジャック (TS または TRS) ソケット。接続する機器がバランス入力に対応している場合は、1/4 インチ TRS ジャックケーブルの使用をお勧めします。
6. 入力 **3** および入力 **4** - Neutrik® 6.35mm (1/4 インチ) ジャックソケット。アンバランスモノラル (TS) およびバランスモノラル (TRS) 1/4 インチジャックのいずれにも対応し、ラインレベル信号を入力できます。

フロントパネルの各機能

本章では、Scarlett 4i4 のフロントパネルのすべての機能を紹介し、Focusrite Control 2 での操作方法についても解説します。

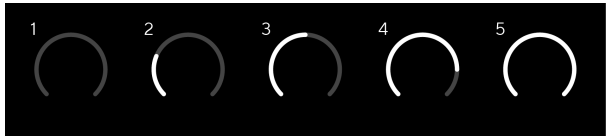
プリアンプの入力ゲインを設定する

プリアンプの入力ゲインを使うと、コンピュータおよび録音ソフトウェアへ送信する信号レベルを調整できます。

最高の音質での録音を行うには、プリアンプの入力ゲインを適切に設定することが重要になります。プリアンプの入力ゲインが低すぎると入力信号が小さくなります。この状態で録音した信号のレベルを上げると、ノイズが大きく聞こえる場合があります。反対にプリアンプの入力ゲインが高すぎると、入力信号がクリップし耳障りな歪みが録音されてしまう可能性があります。

入力ゲインを上げるには、ゲインノブを時計方向に回します。ゲインノブを回すとゲイン Halo が時計回りに徐々に点灯し、ゲインレベルを表示します。ゲインノブの位置と入力ゲイン値の関係は、以下の図の通りです。

1. 入力ゲインなし
2. 入力ゲイン 25%
3. 入力ゲイン 50%
4. 入力ゲイン 75%
5. 入力ゲイン 100%



プリアンプに信号を入力しながら入力ゲインを調整すると、ゲイン Halo はコンピュータへの送信レベルに応じて緑、橙、赤に点灯します。ゲインノブの位置とゲイン値の関係は上記図と同様となります。ゲイン調整後にノブから手を離すと、通常の入力メーター表示に復帰します（入力メーターのページ参照）。

1. ゲイン 40%、適切な信号レベル
2. ゲイン 40%、クリップ寸前の信号レベル
3. ゲイン 40%、信号がクリップ

1. 緑色の点灯は、適切な信号レベルを示します。
2. 橙色の点灯は、信号がクリップ間近であり、これ以上レベルが上がると入力がクリップする恐れがあることを示します。
3. 赤色の点灯は、信号がクリップしており、ゲインを下げるべきであることを示します。

ソフトウェアでのゲインコントロール

プリアンプの入力ゲインは、Focusrite Control 2 から調整することも可能です。

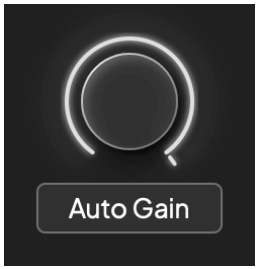
Focusrite Control 2 でプリアンプの入力ゲインを調整するには：

1. ゲインを調整したいチャンネルのバーチャルノブをクリックするか、タブキーでプリアンプのゲインコントロールを選択します。
2. ノブをクリックした状態でマウスを上下に動かすか、矢印キーでゲインを調整します（±1dB 単位）。

下図は、プリアンプの入力ゲインが最小、中間、最大のときのノブの位置を示しています。

入力ゲインなし

ゲイン 50%

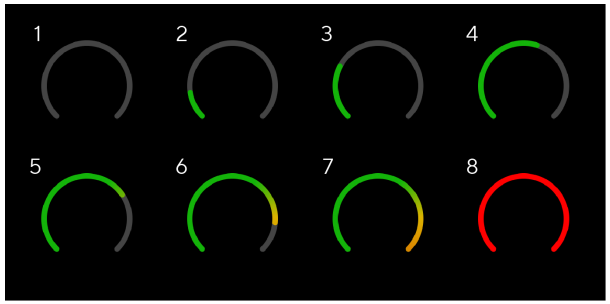


ゲイン 100%

入力メータリング

入力ゲインコントロールを調整してないとき、ゲイン Halo は入力メーターとして機能します。入力信号レベルが大きくなると（入力ゲイン設定が高い場合など）、ゲイン Halo は緑色から橙色に変化します。入力信号レベルがクリップすると、ゲイン Halo 全体が赤く点滅します。

下図は、各入力信号レベルにおけるメーター表示を示しています。



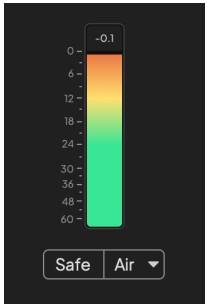
1. 入力信号なし
2. -42 dBFS
3. -36 dBFS
4. -24 dBFS
5. -18 dBFS
6. -12 dBFS
7. -6 dBFS
8. 0 dBFS、クリッピング - 信号の歪みやクリップを避けるため、入力ゲインを下げる必要があります。

ヒント
入力信号がクリップするとゲイン Halo 全体が赤く点灯します。これによりどの角度からでもフロントパネルでクリップの状態を確認できます。

ソフトウェアメータリング

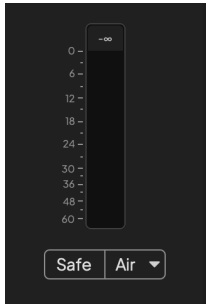
入力信号レベルは、Scarlett 4i4 のフロントパネルと同様に Focusrite Control 2 でも確認でき、プリアンプゲインを適切に設定できます。

信号レベルが大きくなると、Focusrite Control 2 のメーターの色が緑色から橙色（クリップ寸前）に変化します。

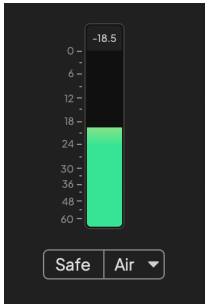


メーター上部のインジケーターは、ピークレベル（dBFS）を表示します。ピークレベルとは、入力信号のモニタリングを開始してからの最大レベルを指します。ピークレベルメーターをマウスでクリックすると、ピーク値をリセットすることができます。

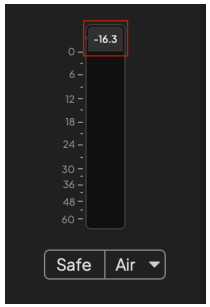
ヒント
録音の際は、ピークレベルが-12dBFS になるように心がけてください。これにより、すべてのトラックの録音を終えた際に十分なヘッドルームを確保できます。



入力信号を待機中

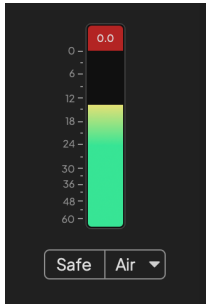


入力信号が-18dB に達した様子

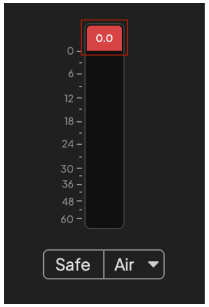


クリックしてピークレベルメーターをリセット

入力信号やゲイン設定が大きすぎてプリアンプがオーバーロードすると、ピークレベルメーターが赤色に点灯します。ピークレベルメーターをマウスでクリックすると、ピーク値をリセットすることができます。



入力信号のクリップを検出



クリップ検出後にピークレベルメーターをクリックしてリセット

マイク入力

3 ピン XLR コネクタ **Input** は、マイクを接続するための入力端子です。

マイク入力レベルは、フロントパネルの対応する入力ゲインノブで調整できます。コンデンサーマイクを使用する場合は、48V ファンタム電源も利用できます。ファンタム電源は、フロントパネルの 48V ボタンで有効にできます。

48V ファンタム電源は、チャンネル毎に有効にできます。

Select ボタン

Scarlett 4i4 のフロントパネルのコントロールの多くは、複数のプリアンプを設定するために使用します。**Select** ボタンを押すと、設定できるプリアンプが切り替わります。

プリアンプはいずれかが常に選択された状態となります。**Select** を押すことで、選択中のプリアンプを切り替えることができます。選択中のプリアンプを切り替えると、新たに選択されたプリアンプの番号が緑色に点灯し、プリアンプ設定の点灯表示が新たなプリアンプの状態に応じて変化します。

Scarlett 4i4 の電源をオンにすると、前回電源をオフにした際に選択されていたプリアンプが選択されます。

プリアンプをリンクする

プリアンプをリンクすると、1 つのコントロールで 2 つのプリアンプを同時に制御できます。2 つのプリアンプに対して同じゲイン値を設定したり、その他の機能を同時に有効にすることができます。そのため、マイクペア、ステレオシンセサイザー、キーボードなど、ステレオ録音の際に便利な機能です。

プリアンプをリンクするには：

- **Select** ボタンを 1 秒間押し続けます。

プリアンプがリンクされると：

- 両方のプリアンプ番号が緑色に点灯し、ゲイン Halo がプリアンプレベルを一時的に表示します。

- 新たにリンクされたプリアンプのゲインレベルは、最小値に設定されます。
- プリアンプの設定は、リンク設定時に選択されていたプリアンプから引き継がれます (例えばプリアンプ 1 が選択されていた場合、プリアンプ 1 の **Air**、**Safe**、**Inst** 設定がプリアンプ 2 に反映されます)。
- プリアンプの設定を変更すると、両方のプリアンプに変更が反映されます。
- いずれかのゲインコントロールを調整すると、両方のプリアンプのゲインレベルが変更され、各ゲイン Halo に表示されます。
- 48V は両方のプリアンプで無効になります。

プリアンプのリンクを解除

プリアンプのリンクを解除するには、**Select** ボタンを 1 秒間長押しします。リンクを解除すると：

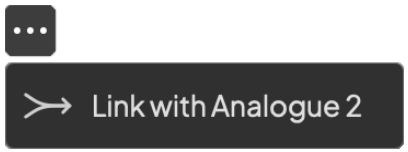
- リンクされていた最初のプリアンプが選択され、緑色に点灯します。
- ゲインレベルとプリアンプ設定は同じ設定となり、以後は個別に変更できます。

Focusrite Control 2 でプリアンプをリンクする

プリアンプをリンク

Focusrite Control 2 からプリアンプをリンクするには：

1. リンクしたいプリアンプにマウスカーソルを合わせます。
2. リーダーアイコン⋯をクリックします。
3. Link with Analogue 2 (入力名は選択したプリアンプによります) をクリックします。

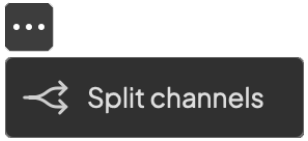


プリアンプがリンクされると、プリアンプ名の横に🔗アイコンが表示されます。

プリアンプのリンクを解除

Focusrite Control 2 でプリアンプのリンクを解除するには：

1. リンクを解除したいプリアンプにマウスカーソルを合わせます
2. リーダーアイコン⋯をクリックします。
3. Split channels を選択します。



48V ボタン (ファンタム電源)

48V (別名ファンタム電源) は、電源を必要とする接続機器に 48V の電圧をインターフェースの XLR コネクタから供給します。主な用途はコンデンサーマイクですが、**48V** を必要とするインラインマイクプリアンプやアクティブダイナミックマイク、アクティブ DI ボックスなどにも使用できます。

48V を有効にするには：

1. 電源を供給したいマイクやその他の機器を、XLR ケーブルでインターフェースの XLR 入力に接続します。**48V** は 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力には供給されません。
2. **Select** ボタンで電源を供給したいプリアンプを選択します。
3. 不要なポップノイズやクリックノイズを避けるため、プリアンプの入力ゲインを下げます。
4. **48V** ボタン (またはソフトウェアの「+48V」ボタン) を押します。

48V アイコンが緑色に点灯し、48V ファンタム電源が有効になったことを示します。

これで、選択した XLR 入力および接続先の機器に 48V ファンタム電源が供給されます。

48V（ファンタム電源）をソフトウェアで有効にする

48V（ファンタム電源）を Focusrite Control 2 で有効にするには、+48V ボタンをクリックします。Scarlett 4i4 ハードウェアの 48V ボタンでもファンタム電源を有効にできます。

+48V ファンタム電源オフ

+48V ファンタム電源オン

重要
大半のダイナミックマイクやリボンマイクでは、**48V** ファンタム電源を誤って供給しても問題が生じることはありません。ただし一部の旧型マイクの場合、ファンタム電源を供給することで悪影響を及ぼす可能性があります。お使いのマイクにファンタム電源が必要かどうか不明な場合は、マイクの取扱説明書を確認し、**48V** ファンタム電源で安全に使用できることをご確認ください。

Inst（インストゥルメント）ボタンおよびライン入力

Inst（インストゥルメント）ボタンは、選択チャンネルの 6.35mm（1/4 インチ）ライン入力にのみ有効となります。この機能を有効にすると、*ラインレベル*機器に適した入力から、インストゥルメント機器に適した入力に切り替わります。

Inst ボタンを押すと、6.35mm（1/4 インチ）ジャック入力のインストゥルメントモードの有効/無効が交互に切り替わります。**Inst** を有効にすると **Inst** 表示が緑色に、無効にすると白色に点灯します。Inst を有効にして入力ジャックにケーブルを接続すると、入力ゲインの最小値が+7dB に変更されます。

注記
Inst 表示が白く点灯している場合は、6.35mm ジャック入力はラインレベルに最適化されていることを示します。

Inst を有効（緑色に点灯）にすると、1/4 インチ入力にはインストゥルメントレベル機器を接続できます。以下は接続可能な機器の一例です。

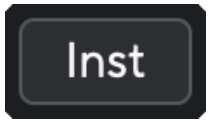
- エレクトリックギターおよびエレクトリックアコースティックギター（直接またはエフェクトペダル経由で接続）
- エレクトリックベース
- ピックアップを備えるアコースティック楽器（バイオリンやコントラバスなど）

Inst を無効（白色に点灯）にすると、6.35mm（1/4 インチ）入力にラインレベル機器を接続できます。以下は接続可能な機器の一例です。

- シンセサイザー
- キーボード
- ドラムマシン
- 外部マイクプリアンプ

インストゥルメント/ライン入力をソフトウェアで切り替える

インストゥルメント入力およびライン入力を Focusrite Control 2 から切り替えるには、対応するアイコンをクリックして表示されるドロップダウンメニューから目的の項目を選択します。



ライン

Instrument

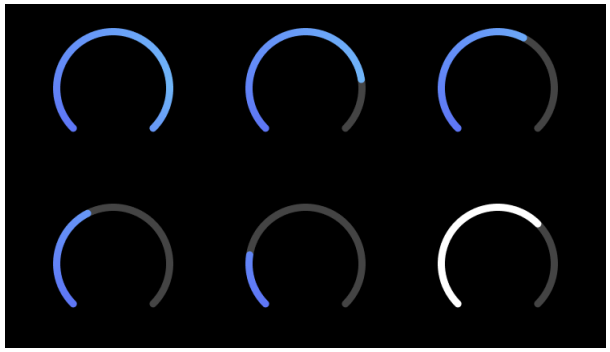
注記
Inst と Line を切り替える際、ゲイン値は最後に設定されていた値に変更されます。

オートゲイン

オートゲインを開始し、Scarlett 4i4 へ信号を 10 秒間入力 (マイクに向かって話す、または楽器を演奏) すると、プリアンプの入力ゲインが最適なレベルに自動的に設定されます。オートゲイン設定後、ゲインノブを用いてゲイン値を手動で微調整することもできます。

オートゲインを使用するには：

1. **Select** ボタンでオートゲインを設定したいプリアンプを選択します。
2. 本体の **Auto** ボタン、またはソフトウェアの Auto Gain ボタンを押します。
   Auto アイコンが 10 秒間緑色に点灯します。ゲイン Halo が 10 秒間のカウントダウンタイマーとして点灯を開始します。



3. オートゲインのカウントダウンが終了するまでマイクに向かって話す (または歌う) か、楽器を演奏します。このとき本番のレコーディングと同じ音量で演奏する (歌う) ことで、適切なレベルを設定できます。

カウントダウンが完了すると、ゲイン Halo が 1 秒間緑色に点灯した後、設定されたゲイン値が表示されます。以上でレコーディングに適切なレベルのゲイン設定が完了となります。

オートゲインの処理が失敗すると、ゲイン Halo は赤く点灯します。詳細は、「ゲイン Halo が赤く点灯した場合」をご参照ください。

注記
Scarlett のオートゲイン機能では、入力信号レベルの他に以下の要素も考慮に入れてレベルが設定されます。

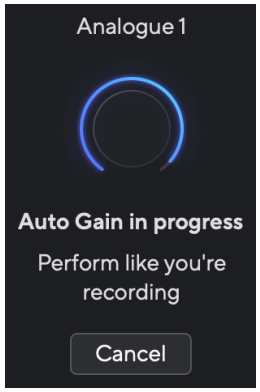
- プリアンプのノイズフロア
- デジタルサイレンス
- チャンネル間クロストーク
- 意図しない振動や接触などによるノイズ

オートゲインをソフトウェアから実行する

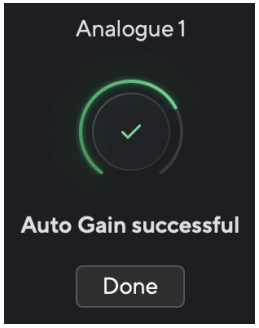
Focusrite Control 2 でオートゲインを使用するには：

1. Focusrite Control 2 の Auto Gain ボタンをクリックします。

2. オートゲインのカウントダウンが終了するまでマイクに向かって話す (または歌う) か、楽器を演奏します。このとき本番のレコーディングと同じ音量で演奏する (歌う) ことで、適切なレベルを設定できます。
   オートゲイン処理が開始され、ソフトウェア上のゲイン Halo がカウントダウンを始めます。



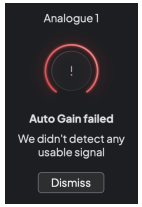
カウントダウンが完了すると、ゲイン Halo が 1 秒間緑色に点灯した後、設定されたゲイン値が表示されます。以上でレコーディングに適切なレベルのゲイン設定が完了となります。



ゲイン Halo が赤く点灯した場合

入力信号がオートゲインに不適切 (信号が入力されない等) だった場合は、10 秒後にオートゲイン処理が停止し、ゲイン Halo が 1 秒間赤く点灯します。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。

本体のゲイン Halo



Focusrite Control 2 オートゲイン失敗

オートゲインを再び開始する前に、入力機器が適切に接続されていること、オートゲイン実行中に入力信号が出力されていることをご確認ください。またコンデンサーマイクを使用する場合は、48V が有効となっていることをご確認ください。

注記
オートゲイン実行中に Auto Gain ボタンを再度押すと、いつでも処理を中止できます。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。

マルチチャンネルオートゲイン

オートゲインを開始し、Scarlett 4i4 へ信号を 10 秒間入力 (マイクに向かって話す、または楽器を演奏) すると、プリアンプの入力ゲインが最適なレベルに自動的に設定されます。オートゲイン設定後、ゲインノブを用いてゲイン値を手動で微調整することもできます。

マルチチャンネルオートゲイン機能では、インターフェースのすべてのプリアンプチャンネルでオートゲイン処理が実行されます。複数チャンネルを同時に録音する場合に、入力レベルを素早く設定できる便利な機能であり、以下のような場面で活用できます。

- ギターを演奏しながら同時にボーカルも録音する場合
- 複数のマイクでドラムキットを録音する場合
- バンドの同時録音

マルチチャンネルオートゲインを開始するには：

1. **Auto** ボタンを 2 秒間長押しします。
   Auto アイコンが 10 秒間、緑色にゆっくりと点滅し、すべてのチャンネルのゲイン Halo が 10 秒間カウントダウンを開始します。
2. オートゲインのカウントダウンが終了するまでマイクに向かって話す (または歌う) か、楽器を演奏します。このとき本番のレコーディングと同じ音量で演奏する (歌う) ことで、適切なレベルを設定できます。

オートゲインのカウントダウンが完了すると、ゲイン Halo が 1 秒間緑色に点灯した後、設定されたゲイン値が表示されます。以上でレコーディングに適切なレベルのゲイン設定が完了となります。

注記
オートゲイン実行中に Auto Gain ボタンを再度押すと、いつでも処理を中止できます。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。

クリップセーフボタン

Safe ボタンを押すとクリップセーフ機能が有効になり、入力信号のクリッピングが生じる恐れのある場合に、プリアンプの入力ゲインが自動的に調整されます。

クリッピングは、プリアンプのオーバーロードにより発生する現象で、入力信号に対してゲイン設定が高すぎると発生しやすくなります。プリアンプの歪みであるクリッピングは不快なサウンドになることが多く、録音テイクを台無しにする可能性があります。クリップセーフはこれを回避するのに役立つ機能であり、入力信号レベルが高くなりクリッピングの恐れが生じると、プリアンプのゲインが自動的に制御されます。そのため、クリップセーフを使うことでテイクの録り直しを防ぐことができます。

注記
クリップセーフ機能は、96kHz までのサンプルレートでのみ使用できます。クワッドバンド (サンプルレート 176.4kHz および 192kHz) では使用できません。この場合には Safe LED が赤く点灯し、使用できないことを示します。

クリップセーフを有効にするには：

1. **Select** ボタンでオートゲインを設定したいプリアンプを選択します。
2. 本体の **Safe** ボタンを押すか、ソフトウェアの Safe ボタンをクリックします。

クリップセーフを有効にすると、**Safe** アイコンが緑色に点灯します。クリップセーフアイコンは、クリップセーフモードが無効かつ使用可能である場合に、白く点灯します。

プリアンプのリンク機能を使用して 2 つの入力を選択中は、**Safe** がいずれのプリアンプにも適用されます。

ヒント
クリップセーフを有効にすると、Scarlett が入力信号を毎秒最大 96000 回のペースで監視します。アナログプリアンプのコントロールと DSP を併用することで、クリッピングのリスクが大幅に抑えられます。

Focusrite Control 2 でクリップセーフを使用する

Focusrite Control 2 でクリップセーフ機能を有効にするには、Safe ボタンをクリックします。

クリップセーフオフ

クリップセーフオン

Air モード

Air モードを有効にすると、Scarlett のプリアンプを異なるキャラクターを持つ 2 つのモードで使用できます (Air Presence、Air Presence & Harmonic Drive)。Air モードは、マイク、ライン、インストゥルメント入力に適用されます。

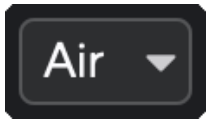
空気はマイク、ライン、楽器の入力に影響を与えます。

Air モードを有効にするには目的の入力を選択し、Air ボタンを押します。ボタンを 1 回押すと Air Presence モード、2 回押すと Air Presence & Harmonic Drive モードとなり、再度ボタンを押すと Air モードが無効になります。選択中もモードに応じて Air LED の色が変化します。

モード	説明	AIR LED	メモ
Off	クリーンなプリアンプ	白	
Air Presence	アナログ回路によりソース信号のプレゼンスが強調されます。	緑	
Air Presence & Harmonic Drive	アナログ Air 回路に加え、ソース信号に倍音成分が付与されます。	オレンジ	96kHz までのサンプルレートでのみ使用可能です。

Air モードをソフトウェアから使用する

Air モードを Focusrite Control 2 で有効にするには、Air ボタンをクリックします。Scarlett 4i4 本体の Air ボタンで Air モードを有効にするのと同様となります。

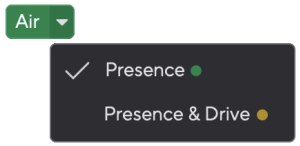


Air モードオフ

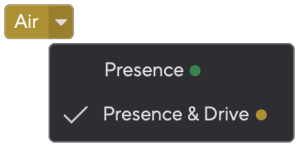
Air Presence が選択中

Air Presence and Drive が選択中

Focusrite Control 2 の Air ボタンをクリックすると、前回選択されていた Air モードが有効になります。Air モードを変更するには、矢印アイコンをクリックして表示されるポップアップメニューから目的のモード (Presence または Presence & Drive) を選択します。



Air Presence が選択中



Air Presence and Drive が選択中

注記
Air Presence & Drive モードは、96kHz までのサンプルレートでのみ使用できます。クワッドバンド（サンプルレート 176.4kHz および 192kHz）では使用できません。

Output ノブおよびレベルメーター

Output ノブおよび出力レベルメーターは、Scarlett 4i4 のリアパネルにある Outputs 1 および 2 からの信号レベルを調整/監視します。この出力部は多くの場合、モニタースピーカーに接続されます。

Output ノブは、出力レベルをゼロ（左回り一杯）からフルスケール（右回り一杯）の範囲で変更できます。

Output ノブの周囲にあるレベルメーターは、ノブの位置に関係なくコンピュータからの信号レベルを表示するプリフェーダー仕様のメーターです。

ヘッドフォン出力

ヘッドフォン出力部は 6.35mm（1/4 インチ）TRS ジャック用となっています。多くのヘッドフォンの端子は 3.5mm TRS ジャックとなっていますが、これらのヘッドフォンを Scarlett 4i4 に接続するには、TRS 6.35mm - 3.5mm 変換アダプターを使用してください。

ヘッドフォン出力レベルはヘッドフォン出力コネクタ上部のノブで調整できます。

一部の高インピーダンスヘッドフォンを Scarlett 4i4 で使用すると、ヘッドフォンボリュームが十分とならない場合があります。そのため、インピーダンス 300Ω 以下のヘッドフォンの使用をお勧めします。

注記
一部のヘッドフォンおよびジャックアダプターの中には、TS または TRRS コネクタを備えているものがあります(マイクやボリュームコントロールがケーブルに組み込まれている製品など)。これらのヘッドフォンは Scarlett で正常に使用できない可能性があるため、問題が発生した場合は TRS 仕様のヘッドフォンおよびジャックアダプターを使用してください。

スピーカー、ライン、ヘッドフォン出力のルーティング

ヘッドフォン出力には、ハードウェア入力（ダイレクトモニタリング）およびソフトウェア再生チャンネルの信号を同時に割り当てることができます。

ヘッドフォン出力用ミックスを作成する方法は、Focusrite Control 2 ミキサー [38]をご参照ください。

Scarlett 4i4 のヘッドフォン出力は、ライン出力 1/2 および 3/4 と独立しており、完全に独自のヘッドフォンミックスを作成できます。

リアパネルの詳細

本章では、Scarlett 4i4 のリアパネルのすべての機能を紹介し、Focusrite Control 2 での操作方法についても解説します。

USB 接続

USB ポート

USB と記載されている USB タイプ C ポートは、Scarlett とコンピュータを接続するために使用します。

コンピュータと接続することで、USB 電源供給、双方向オーディオ伝送、Focusrite Control 2 への接続が確立されます。

5V DC ポート

Scarlett 4i4 は多くの電力を消費します。コンピュータによっては大音量でヘッドフォンを再生する場合などの電力消費が高くなる状況で USB ポートから十分な電力を供給できず、Scarlett 4i4 の接続が切断されたり、USB アイコンが赤く点滅する場合があります。

これらの症状が発生した場合は、**5V DC** ポートに USB 電源アダプターを接続し、Scarlett に電源を供給してください。

USB アイコンが赤く点滅する場合

USB アイコンが赤く点滅する場合は、Scarlett 4i4 に十分な電源が供給されていないことを意味します。

この問題を解決するには：

1. 両方の USB ケーブルを本体から取り外します。まず電源アダプターを Scarlett の **Power** USB ポートに接続し、次に USB ケーブルを **USB ポート**に接続します。
2. 電源アダプターは、付属の USB 電源アダプターを使用してください。
3. コンピュータの別の USB ポートに USB ケーブルを接続し直します。また USB ハブを使用せずコンピュータと Scarlett を直接接続します。

MIDI

リアパネルの MIDI 入出力ポートを使用すると、Scarlett 4i4 を USB MIDI インターフェースとして利用できます。MIDI IN は、キーボードや MIDI コントローラーからの MIDI 信号を受信します。MIDI OUT は、シンセサイザーやドラムマシン、その他の MIDI 対応機器などに対して MIDI 情報を送信します。

重要

ご購入後最初に電源を投入すると、Scarlett 4i4 はイージースタートモードで起動します。そのため MIDI 機能は無効に設定されています。MIDI 機能を有効にするには、Focusrite Control 2 をインストールして起動する必要があります。

Scarlett 4i4 を USB MIDI インターフェースとして使用するために特別な設定は必要ありません。ただし MIDI 機能を使用するには、Focusrite Control 2 をインストールして起動する必要があります。MIDI 対応ソフトウェアで Scarlett 4i4 の MIDI ポートを選択すると、Scarlett の 5 ピン DIN MIDI ポートを使用して MIDI ハードウェアとコンピュータ間の MIDI 送受信が行えます。

注記

Scarlett 4i4 の MIDI Out ポートは、MIDI Thru ポートとしては使用**できません**。

スピーカー出力

Outputs L および **R** は、Scarlett 4i4 をアンプやアクティブモニターに接続するためのラインレベル出力です。バランス 1/4 インチ TRS ジャックを備え、アンバランス TS またはバランス TRS ケーブルを使用できます。

Scarlett 4i4 のフロントパネルにある **Output** ノブにて、**Outputs L** および **R** に送られる信号レベルを調整できます。

ライン出力

ライン出力 3-4 は、モニターライン出力 1-2 と同じ電気的特性を備えます。ただし Output ノブで出力レベルをコントロールすることはできません。

Focusrite Control 2 を使うと、これらの出力から送信するミックスを作成できます。マルチチャンネルモニタリングシステムの追加のスピーカー（サブウーファーなど）に送信したり、アウトボードプロセッサーへの送信などに活用できます。

DAW (録音ソフトウェア) のセットアップ

Scarlett は、ASIO (Windows) および Core Audio (macOS) に対応する DAW で使用できます。

以下では、主要な DAW で Scarlett をセットアップしレコーディングを開始するための手順を紹介します。より詳しい情報は、お使いの DAW のユーザーガイドをご参照ください。

コンピュータに以下で解説する DAW がインストールされていない場合は、Scarlett 付属の Ableton Live Lite および Pro Tools Artist をご利用ください。これらの DAW はイージースタート [5]または Focusrite アカウントからダウンロード可能です。

ヒント

DAW とは ?

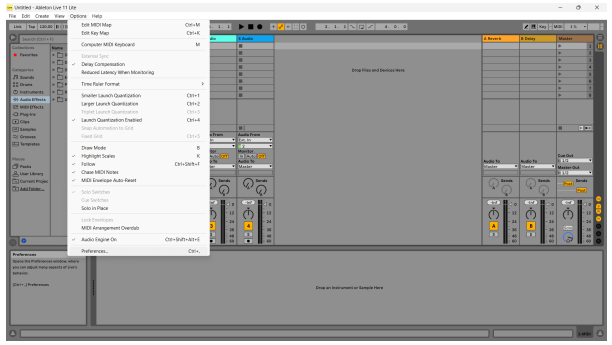
DAW (デジタルオーディオワークステーション) とは、音楽のレコーディング、アレンジ、制作を行うためのソフトウェア全般を指す用語です。

Ableton Live

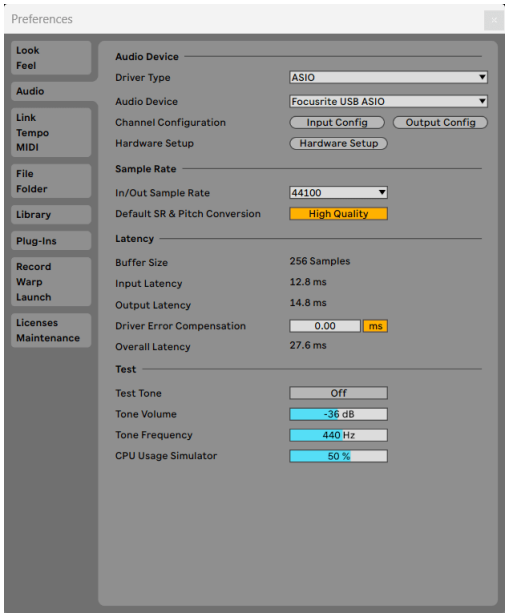
Ableton Live のセットアップ手順は、以下の通りです：

Windows

1. コンピュータにインストールされている Ableton Live を起動します。
2. オプション > 環境設定...を選択します。



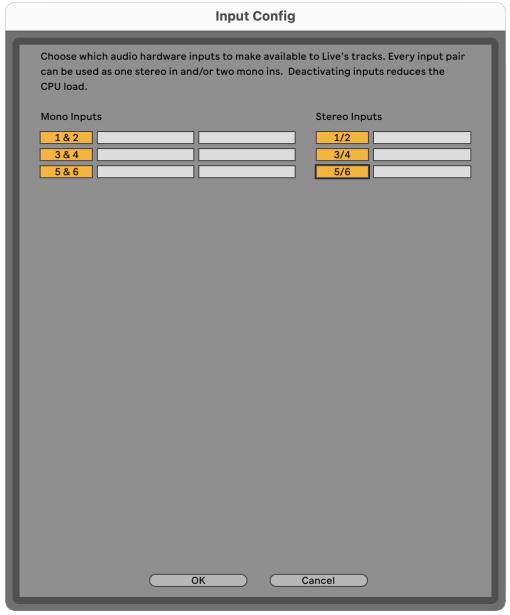
3. 環境設定ウインドウの左側の項目から **Audio** タブを選択します。
4. **ドライバタイプ**で ASIO を、**オーディオデバイス**で Focusrite USB ASIO を選択します。



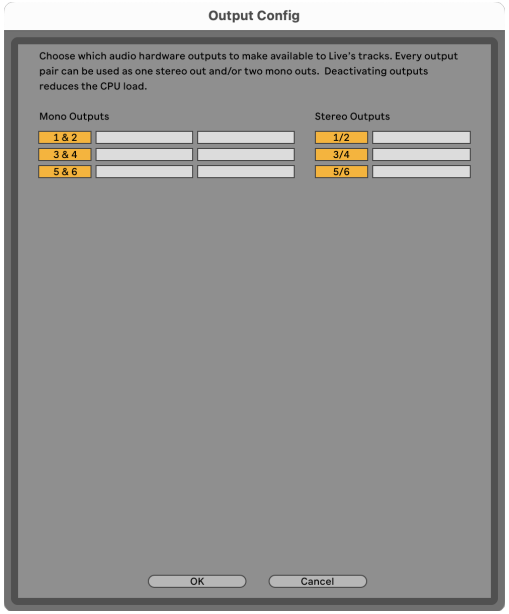
5. 入力設定をクリックします。

次の手順では、インターフェースのすべての入力を Ableton Live の入力チャンネルとして表示させるための設定を行います。

6. **モノ**および**ステレオ入力**の各項目をクリックして選択します。ここで選択した項目が、Live の入力チャンネルとして選択可能になります。



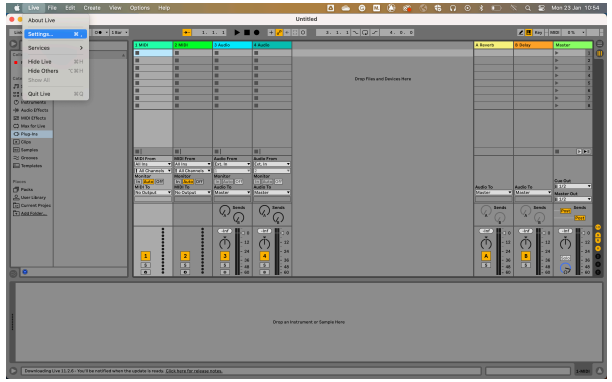
7. **OK** をクリックします。
8. Scarlett 4i4 から複数チャンネルを出力したい場合は、**出力設定**で同様の設定を行います。



9. 環境設定ウインドウを閉じます。

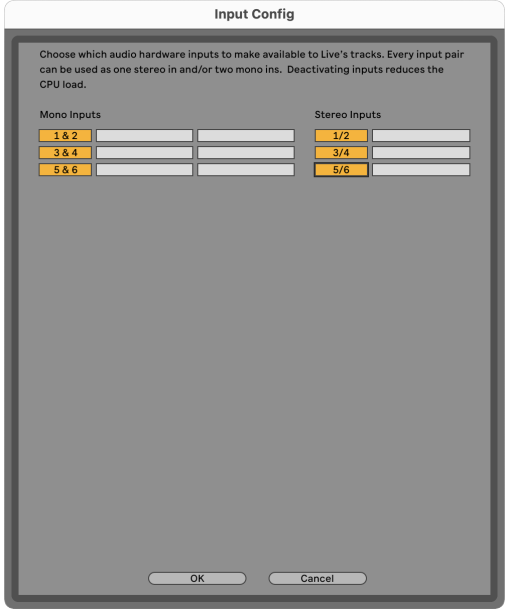
Mac

1. コンピュータにインストールされている Ableton Live を起動します。
2. メニューバーの **Live** をクリックします。

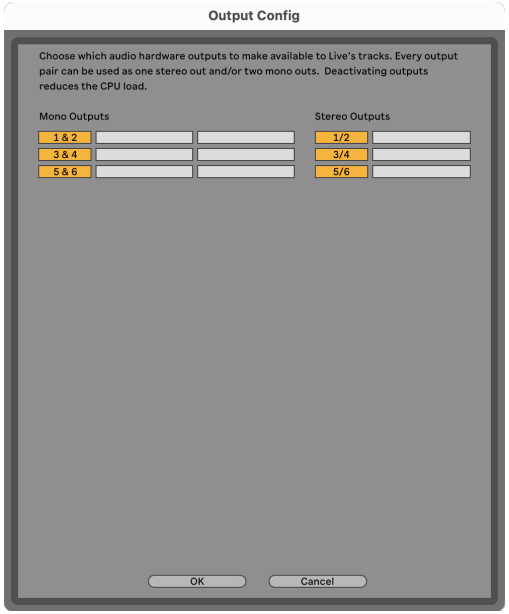


3. **設定...**をクリックします。
4. 環境設定ウインドウの左側の項目から **Audio** タブを選択します。
5. **オーディオ入力デバイス**および**オーディオ出力デバイス**で Scarlett 4i4 4th Gen を選択します。

6. **入力設定**をクリックします。
   次の手順では、インターフェースのすべての入力を Ableton Live の入力チャンネルとして表示させるための設定を行います。
7. **モノ**および**ステレオ入力**の各項目をクリックして選択します。ここで選択した項目が、Live の入力チャンネルとして選択可能になります。これにより、最大 six チャンネルの入力が Live に表示されます。



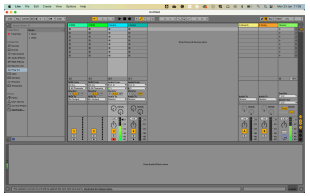
8. **OK** をクリックします。
9. Scarlett 4i4 から複数チャンネルを出力したい場合は、**出力設定**で同様の設定を行います。

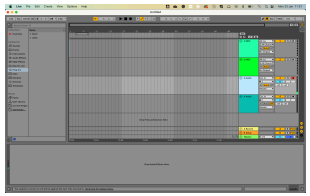


10. 環境設定ウインドウを閉じます。

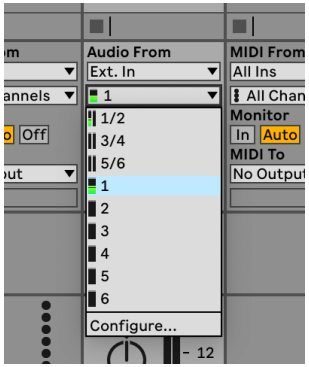
Ableton Live で録音する

1. Ableton Live のメインウインドウで**オーディオ**トラックをクリックします。Live には 2 種類のビュー (セッションビューおよびアレンジメントビュー) があります。下のスクリーンショットは、各ビューでオーディオトラックを選択した様子を示しています。

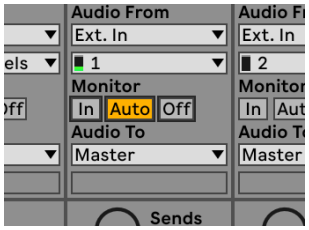




2. **Audio From** のドロップダウンメニューから **Ext. In** を選択し、入力チャンネルをインターフェースで使用する入力 (**1** など) に設定します。

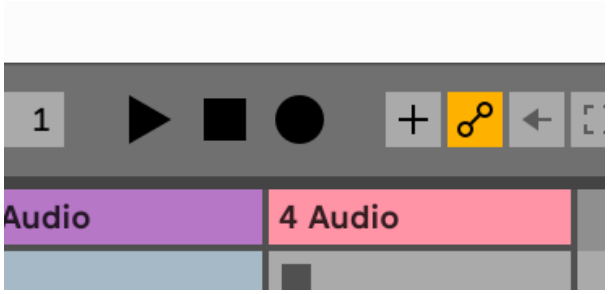


3. **Monitor** で **Auto** を選択します。
これにより Scarlett から入力される信号を聴くことができます。



4. トラック下部のアームボタンをクリックします。トラックアームが赤く点灯し、アームが有効になったことを示します。
Scarlett へ信号が入力されると、Ableton Live の入力メーターが反応します。

5. 録音の準備ができたら、トランスポートバーの ⊠ をクリックします。

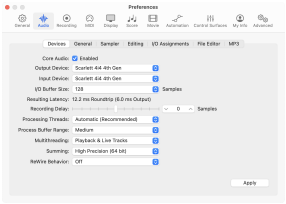


Logic および GarageBand

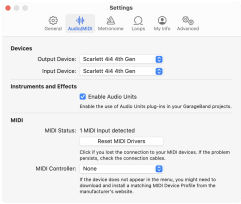
Logic Pro および GarageBand のセットアップ手順は以下の通りです：

1. コンピュータにインストールされている Logic Pro または GarageBand を起動します。プロジェクトを選択ダイアログが表示された場合は、空のプロジェクトを選択するか、テンプレートを選択します。
2. **トラックのタイプを選択**ウインドウでオーディオを選択します。
3. **入力**を入力 1 に設定します。
   入力が表示されない場合は、**デバイス：**が Scarlett 4i4 に設定されているかを確認します。

   a. デバイスセクション右の矢印をクリックします。
   b. 設定ウインドウの**出力デバイス**および**入力デバイス**で Scarlett 4i4 4th Gen を選択します。



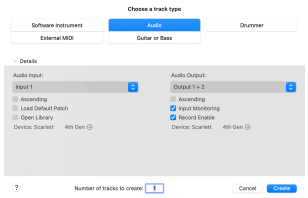
Logic Pro X



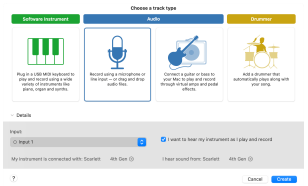
GarageBand

   c. **適用**をクリックします（Logic のみ）。
   d. **環境設定または設定**ウインドウを閉じます。

4. Logic Pro：**入力モニタリング**と**録音を可能にする**のチェックボックスを選択します。
   GarageBand：**演奏や録音中に自分の音源の音を聴く**のチェックボックスを選択します。
   これにより Scarlett から入力される信号を聴くことができます。
5. **作成**をクリックします。

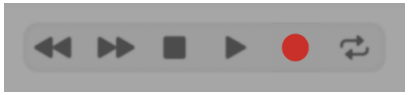


Logic Pro



GarageBand

6. 録音の準備ができたら、Logic/GarageBand の録音ボタンをクリックします。

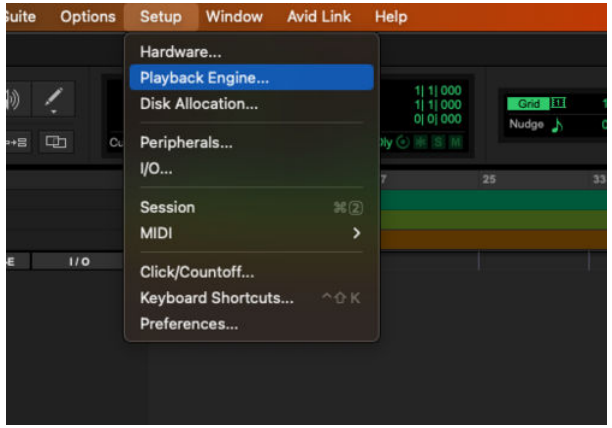


Pro Tools

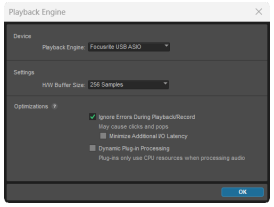
Pro Tools のセットアップ手順は、以下の通りです：

Mac および Windows

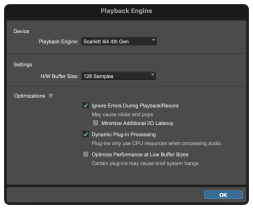
1. コンピュータにインストールされている Pro Tools を起動します。
2. メニューから設定 > プレイバックエンジン...を選択します。



3. **プレイバックエンジン**のドロップダウンメニューで Focusrite USB ASIO（Windows）または Scarlett 4i4 4th Gen を選択します。

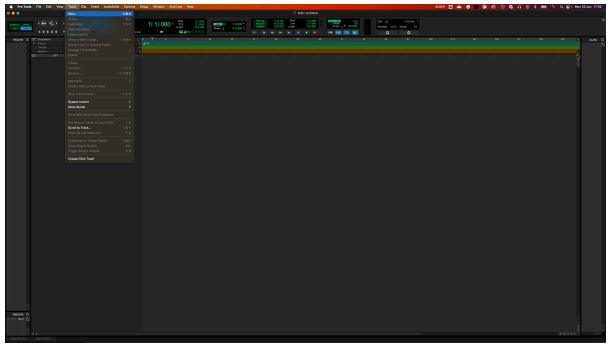


Windows

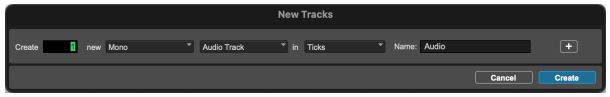


Mac

4. メニューからトラック > 新規...を選択します。



5. 必要なトラック数を入力し、トラックのタイプでオーディオトラックを選択します。



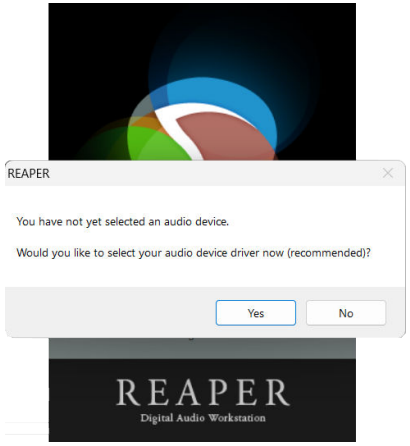
6. 作成をクリックします。
7. トラックのレコードアームボタンおよびインプットモニターボタンをクリックします。
これにより Scarlett から入力される信号を聴くことができます。
8. Pro Tools ウインドウ上部の録音ボタンをクリックすると、ボタンが赤く点灯します。
9. 再生ボタンを押すと、録音が開始されます。

Reaper

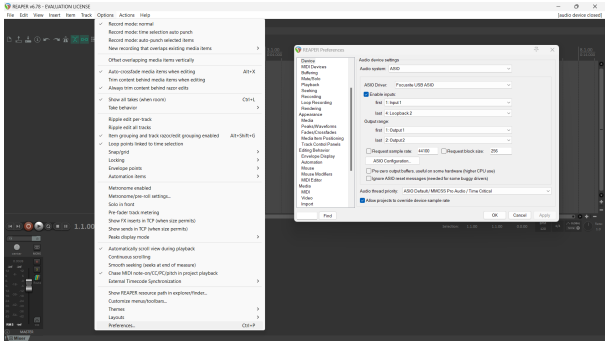
Reaper のセットアップ手順は、以下の通りです：

Windows

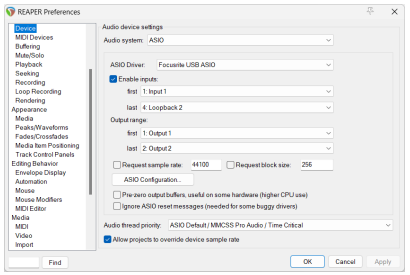
1. コンピュータにインストールされている Reaper を起動します。
2. オーディオデバイスドライバーの選択を促すポップアップウインドウが表示された場合は、**Yes** をクリックします。



ポップアップウインドウが表示されなかった場合は、メニューから **Options** > **Preferences** > **Device** を選択します。

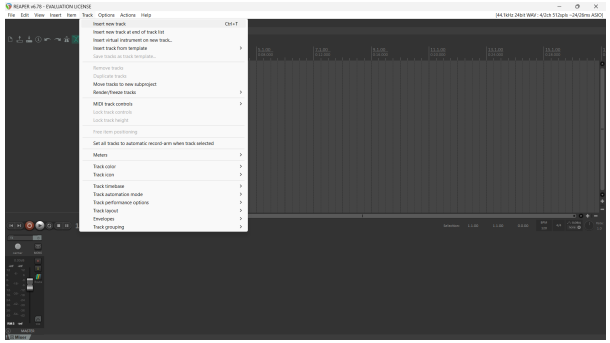


3. **Audio device settings** が表示されます。



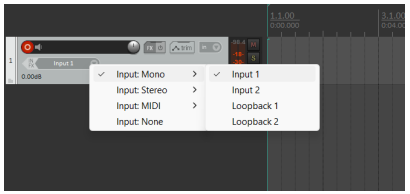
   a. **Audio :** ドロップダウンメニューで ASIO を選択します。
   b. **ASIO Driver:** ドロップダウンメニューで Focusrite USB ASIO を選択します。

4. **OK** をクリックします。
5. トップメニューから **Track** > **Insert New Track** を選択します。



6. 赤色の録音アームボタンをクリックします。

7. **Input 1** ボックスをクリックし、Scarlett 4i4 の入力を選択します。

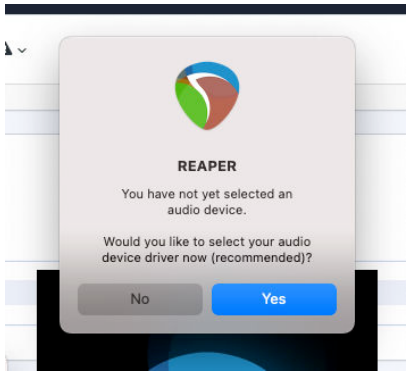


8. 録音の準備ができたら、ウインドウ下部の録音ボタンをクリックします。

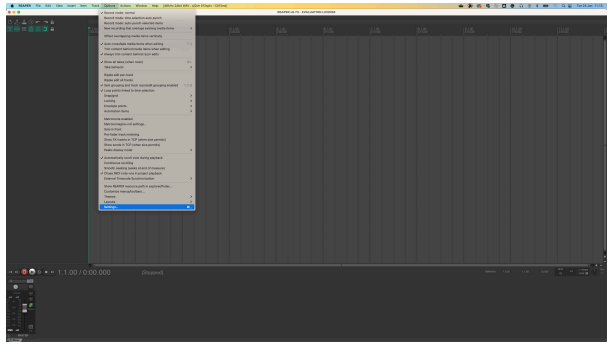
Mac

1. コンピュータにインストールされている Reaper を起動します。

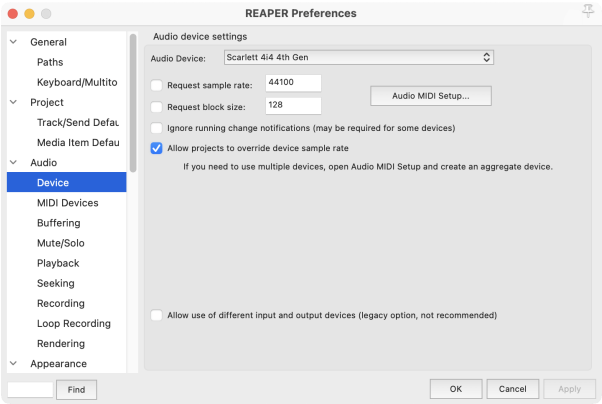
2. オーディオデバイスドライバーの選択を促すポップアップウインドウが表示された場合は、**Yes** をクリックします。



ポップアップウインドウが表示されなかった場合は、メニューから **Options** > **Settings** > **Device** を選択します。

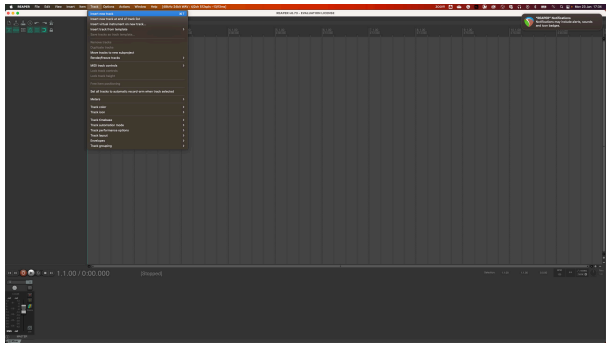


3. **Audio Device** ドロップダウンメニューで Scarlett 4i4 を選択します。

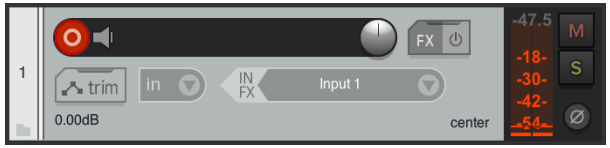


4. **OK** をクリックします。

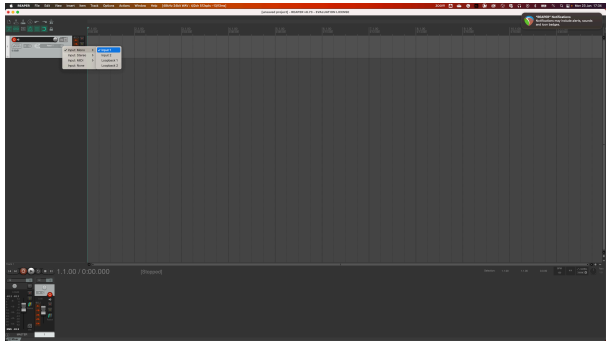
5. トップメニューから **Track** > **Insert New Track** を選択します。



6. 赤色の録音アームボタンをクリックします。



7. **Input 1** ボックスをクリックし、Scarlett 4i4 の入力を選択します。

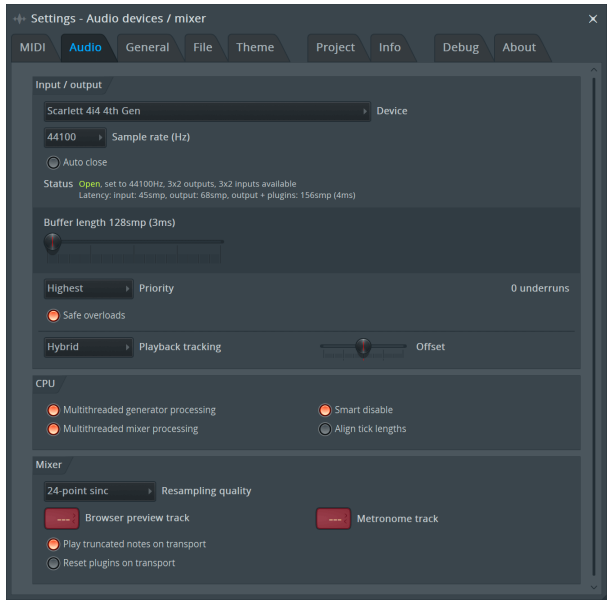


8. 録音の準備ができたら、ウインドウ下部の録音ボタンをクリックします。

FL Studio

FL Studio のセットアップ手順は、以下の通りです：

1. コンピュータにインストールされている FL Studio を起動します。
2. **Options** > **Audio Settings** を選択します。
3. **Input / output** セクションの Device ドロップダウンメニューで Scarlett 4i4 4th Gen（Windows では Focusrite USB ASIO）を選択します。



4. Settings ウインドウを閉じます。
5. **Mixer** ウインドウを開き、録音したいトラックのインサートを選択します。
6. **(none)**となっている外部入力のドロップダウンメニューにて、使用するインターフェース入力を選択します。例：モノラル入力の場合 **Input 1**、ステレオ入力の場合 **Input 1 - Input 2** を選択。

7. トランスポートセクションの録音ボタンをクリックします。

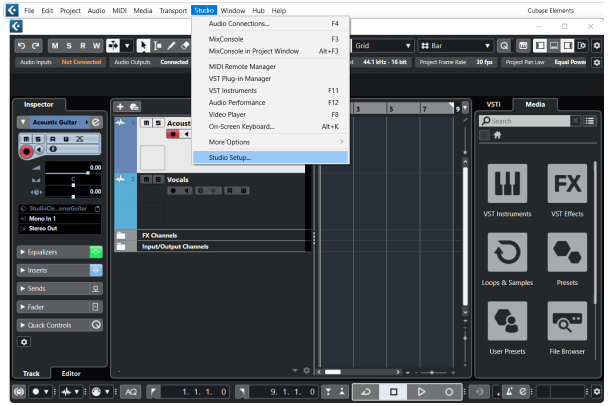
- 表示される **What would you like to record?** ウインドウで必要に応じてオプションを選択します。
  選択オプションに関する詳細は、FL Studio のヘルプファイルをご参照ください。

8. 録音の準備ができたら、トランスポートセクションの再生ボタンをクリックします。

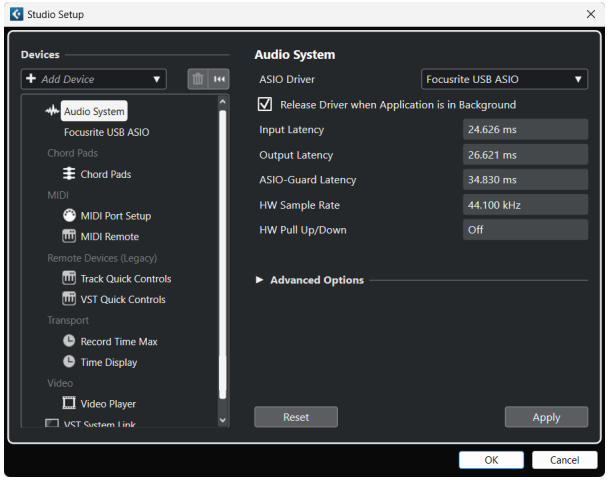
Cubase

Windows

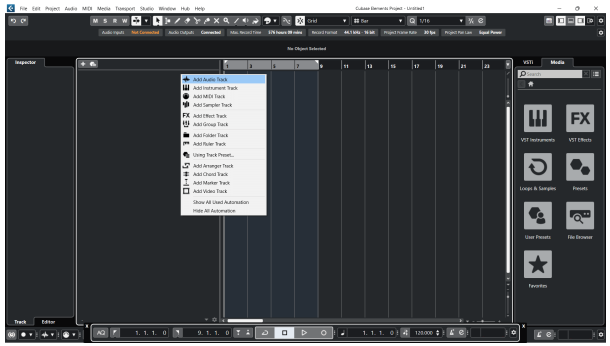
1. コンピュータにインストールされている Cubase を起動します。
2. トップメニューからスタジオ > スタジオ設定...を選択します。



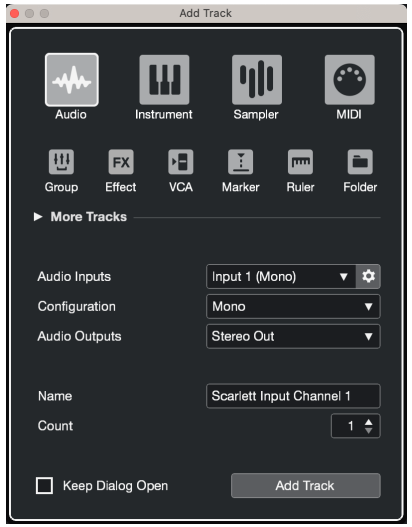
3. ウインドウ左側の項目から、オーディオシステムを選択します。
4. **ASIO ドライバー**ポップアップメニューで Focusrite USB ASIO を選択します。



5. 適用をクリックします。
6. MixConsole 内を右クリックします。
7. Audio トラックを追加をクリックします。



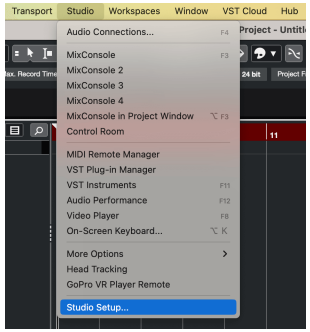
8. トラックタイプをオーディオに設定し、**オーディオ入力**をお使いのインターフェースの入力チャンネルに設定します。



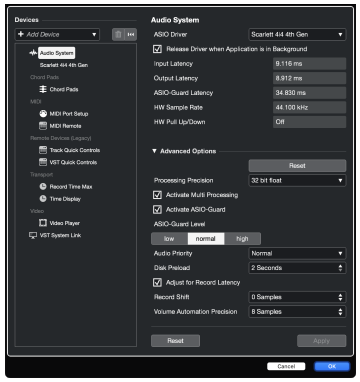
9. トラックを追加をクリックします。
10. 録音したい Cubase のチャンネルで録音可能ボタンとモニタリングボタン（オフ）をクリックすると、録音が有効になると同時に入力信号のモニタリングが有効になります。（オン）。
11. トランスポートパネルで録音ボタンをクリックすると、録音が開始されます。

Mac

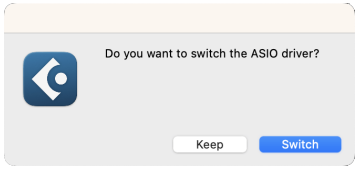
1. コンピュータにインストールされている Cubase を起動します。
2. トップメニューからスタジオ > スタジオ設定...を選択します。



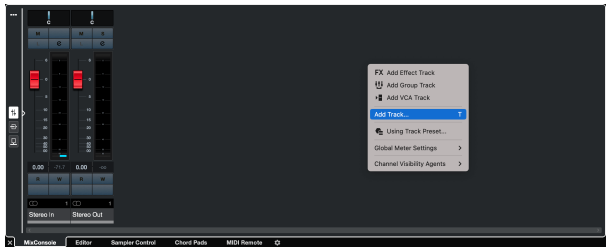
3. **ASIO ドライバー**を Scarlett 4i4 4th Gen に選択します。



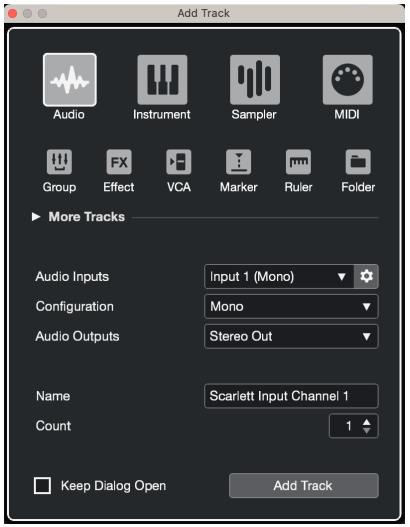
4. **切り替え**をクリックします。



5. 適用をクリックします。
6. MixConsole 内を右クリックします。
7. トラックを追加をクリックします。



8. トラックタイプをオーディオに設定し、**オーディオ入力**をお使いのインターフェースの入力チャンネルに設定します。



9. トラックを追加をクリックします。
10. 録音したい Cubase のチャンネルで録音可能ボタンとモニタリングボタン（オフ）をクリックすると、録音が有効になると同時に入力信号のモニタリングが有効になります。（オン）。
11. トランスポートパネルで録音ボタンをクリックすると、録音が開始されます。

使用例

入出力の接続

下の図は、様々な入出力機器と Scarlett 4i4 の接続例です。

1. ギター、ベース、エレクトリックアコースティックギターやその他の楽器をフロントパネルの 6.35mm ジャック入力 **1** または **2** に接続します。楽器を接続する場合は、6.35mm - 6.35mm TS モノラルケーブルを使用し、**Inst** ボタンでインストゥルメント入力を有効にします。
2. XLR - XLR ケーブルを使用してマイク (CM25 MkIII など) を**入力 1** または **2** に接続します。マイクの接続には XLR ケーブルを使用する必要があります。その他のケーブルで接続すると、マイクが機能しないか、問題が生じる場合があります。必要に応じて 48V ファンタム電源を有効にします。
3. ヘッドフォン (Scarlett SH-450 など) を 6.35mm ジャックを使用してヘッドフォン出力に接続します。ヘッドフォンの接続には、TRS ジャックコネクタを使用する必要があります。お使いのヘッドフォンのジャックコネクタが小さい場合は、変換アダプターを使用してください。
4. シンセサイザーやキーボード、マイクプリアンプなどのラインレベル機器をライン**入力 3** および**入力 4** に接続します (入力ゲインは固定)。バランス接続の場合は、6.35mm TRS コネクタを使用してください。TS ジャックコネクタを使用すると、アンバランス接続になります。
   入力 1 または**入力 2** にラインレベル機器を接続することも可能です。ゲインコントロールを使用することで録音ソフトウェアに送信する信号レベルを調整できます。**入力 1** または**入力 2** にラインレベル機器を接続する場合は、Inst を無効にしてください。
5. モニタースピーカー (モニターとも呼ばれます) を出力 **R** および **L** (左右チャンネル) に接続します。モニタースピーカーとの接続には、6.35mm バランス TRS を使用してください。お使いのモニタースピーカーが TRS 接続に対応していない場合の対処法は、モニタースピーカーのユーザーガイドをご参照ください。
6. Scarlett とコンピュータを **USB** ケーブルで接続します。
7. 付属の電源アダプターで Scarlett を電源に接続します。

注記
入力 3 および**入力 4** にギターやマイクロフォンを直接接続することはできません。

アウトボード機器を使用する

Scarlett 4i4 が備える複数の入出力を使用して、アウトボード機器をミックスに取り入れることができます。アウトボード機器とは、ミキシング時に使用するイコライザー、コンプレッサー、リバーブ、ディレイ等のエフェクトユニットの事を指します。

アウトボードエフェクトをミックスで使用する場合は、インサートエフェクト (主に EQ やコンプレッサーなど)もしくはセンド/リターンエフェクト(主にリバーブやディレイなど) のいずれかの方法が用いられます。

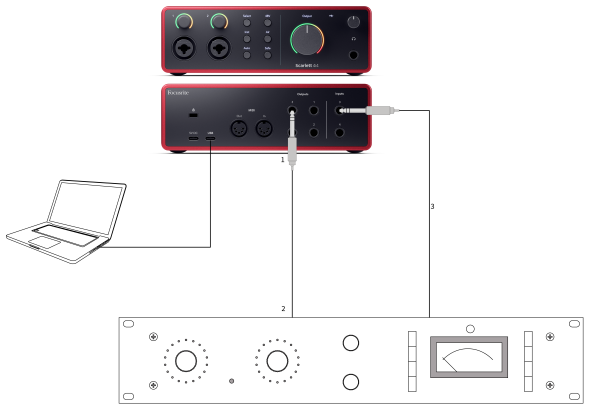
- **インサート** - エフェクトが信号パスに配置され、アウトボード機器の効果が信号全体に適用されます。
- **センドおよびリターン** - アウトボードに送信された「ドライ」信号が、「ウェット」信号 (エフェクト音) として DAW に戻されます。多くの場合ウェット信号は別チャンネルに入力されます。元のドライ信号と、アウトボードを経由したウェット信号を目的に応じてミックスします。

ヒント
エフェクトのインサートおよびセンド/リターンの使い方にルールはありません。例えば、コンプレッサーをセンドエフェクトで使用するテクニックも存在します。パラレルコンプレッションまたはニューヨークコンプレッションという名で知られるこのテクニックは、ミックス内のトラックに厚みを出すのに非常に有効な手法です。

以下の図は、アウトボード機器を Scarlett 4i4 に接続し、Focusrite Control 2 のミキサーで信号をルーティングする場合の接続例です。DAW と外部プロセッサーを接続し、インサートまたはセンド/リターンとして使用する方法は、殆どの DAW ソフトウェアのユーザーガイドに記載されています。お使いの DAW にアウトボード機器を接続する方法については、本マニュアルと DAW のユーザーガイドを合わせてご参照ください。

ハードウェア接続

ハードウェアをセットアップする際は、信号の流れの順番に機器を接続します。

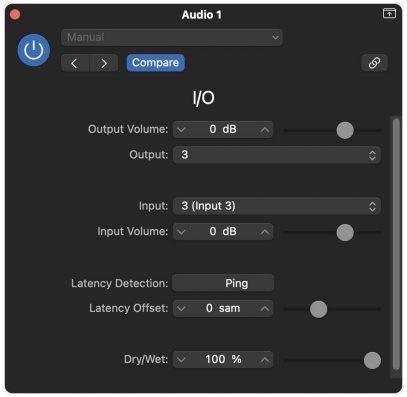


1. 6.35mm バランス TRS ジャックケーブルをインターフェースの予備のライン出力 (スピーカー用ではない出力) の 1 つに接続します。
2. そのケーブルをアウトボードエフェクト機器の 6.35mm ジャック入力または XLR 入力に接続します。XLR 入力を使用する場合は、お使いのアウトボード機器がラインレベル信号入力に対応しているかをご確認ください。
3. 次にアウトボードエフェクト機器の出力を Scarlett 4i4 の予備の 6.35mm ジャック入力に接続します。アウトボード機器の出力は、多くの場合ラインレベル仕様です。従ってアウトボード機器からの出力は Scarlett 4i4 のライン入力ジャックに接続します。

ソフトウェアのルーティング

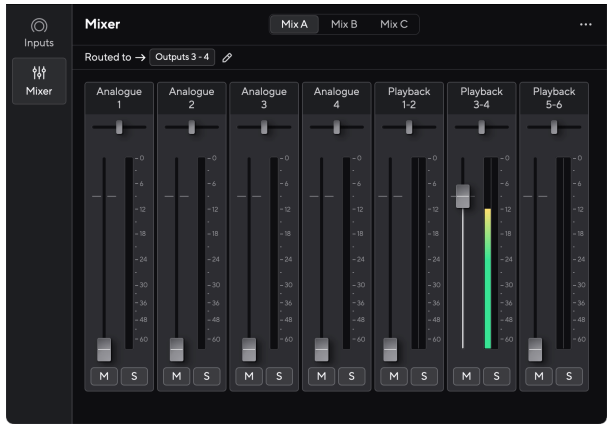
ソフトウェアでのルーティング手順は、以下の通りです。お使いの DAW によって手順が異なる場合があります。

1. まず、エフェクトを適用したい DAW トラックにインサートまたはセンドを追加します。インサートまたはセンドのソフトウェア出力をメモしておきます (出力 3 など)。



Logic Pro の I/O インサートプラグイン - センドまたはバスチャンネルでこのプラグインをアサインします。

2. インサートまたはセンド用のソフトウェア出力 (出力 3 など) が、アウトボード機器が接続されている Scarlett の出力にルーティングされているかを Scarlett 4i4 で確認します。出力のルーティングに関する詳細は、Focusrite Control ミキサー [38]をご参照ください。



3. お使いの DAW で、インサート信号の入力、またはセンド信号のリターン入力が、アウトボード機器の出力に接続された Scarlett 4i4 の入力に設定されているかを確認します。

以上の手順を完了後に DAW セッションを再生すると、アウトボード機器からのエフェクト信号がインサートチャンネルのエフェクトチェインまたはリターンチャンネルから聞こえるはずです。

ヒント
アウトボード機器の代わりにリアンプボックスやギターアンプを接続することで、上記と同じ手順で DI ギター信号のリアンプを行うこともできます。

ループバック

ループバック機能を使用すると、コンピュータから出力されたオーディオ信号をインターフェースに接続されているマイクや楽器の信号と共に録音ソフトウェアの別のチャンネルに録音できます。

ループバックを使用するには、DAW ソフトウェアで入力 channels 5-6 を選択します。

ループバックは、コンピュータから出力されたオーディオ出力を「ループバック」し、Scarlett のバーチャル入力チャンネルに送信します。コンピュータから出力されるあらゆるオーディオ信号を DAW (デジタルオーディオワークステーション) に録音可能です。

また、Scarlett 内で任意のオーディオソース (プリアンプに接続された楽器やコンピュータからのオーディオ信号など) を組み合わせたミックスを作成することもできます。ループバックを使用することで、楽器とバッキングトラックによるミックスをオンラインコンサートで使用したり、ゲーム音声とマイク入力のミックスをライブ配信することができます。詳細は、Focusrite Control 2 ミキサー [38]をご参照ください。

重要
ループバック使用の際は、フィードバックループの発生を防ぐため、録音ソフトウェアのチャンネルをミュートしてください。

スタンドアローンモード

Scarlett 4i4 は、コンピュータに接続していなくても単独で動作してオーディオ信号を伝送できるスタンドローンモードを備えます。スタンドアローンモードは、以下の用途などに活用できます：

- 他のインターフェースやミキサーを使用中に、マイクプリアンプの数を追加したい場合。
    - 使用中のインターフェースの未使用のライン入力を使用できます。Scarlett のマイク入力をライン出力にルーティングすることで可能となります。
- コンピュータを起動したり接続したりせずに、スタジオセットアップを使用したい場合 – ギターやその他の電子楽器の音を、コンピュータを使用せずにスピーカーから直接出力できます。

スタンドローンモードを有効にするには：

1. Scarlett の電源ソケットに電源ケーブルを接続します。

2. Focusrite Control 2 が起動中のコンピュータに Scarlett 4i4 を接続します。
   Focusrite Control 2 のミキサーページを開き、Scarlett 4i4 の入力と目的の接続先をルーティングします。詳細は、Focusrite Control 2 ミキサー [38]をご参照ください。
   例えば、マイク入力 1 およびマイク入力 2 をライン出力 3 とライン出力 4 にルーティングすると、Scarlett 4i4 は単体のマイクプリアンプとして動作し、出力信号を他のプリアンプのライン入力に接続することができます。
3. Scarlett 4i4 をコンピュータから取り外します。切断後、本体はスタンドアローンモードで動作し、オーディオ入力信号が設定した出力から送出されます。
4. 通常通りインターフェースに入出力を接続します（使用例参照）

Focusrite Control 2

Focusrite Control 2 ミキサー

Scarlett 4i4 は、Focusrite Control 2 の Mixer ページで操作可能なミキサー機能を備えます。このミキサーを使用することで、複数の入力ソースを Scarlett 4i4 の物理出力に送信できます。

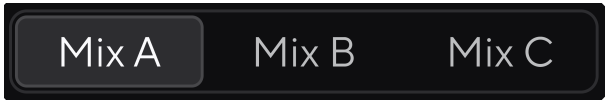
利用可能な入力ソース：

- 入力部
  - アナログ入力（インストゥルメント、マイクまたはライン入力）
- 再生入力
  - DAW ソフトウェアからの出力チャンネル
  - その他のソフトウェアからの再生チャンネル

入力ソースを組み合わせて作成したミックスは、スピーカー用のミックスや演奏者用のヘッドフォンミックスなどとして、Scarlett 4i4 の出力に送信できます。

ミックス

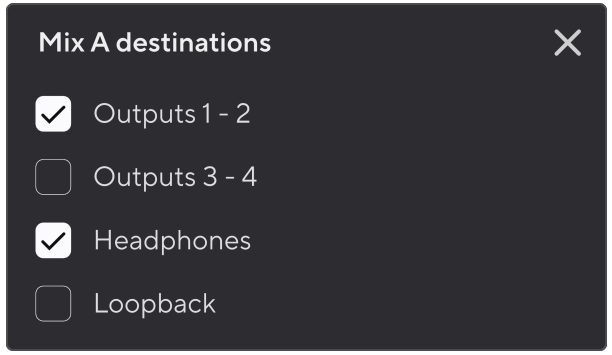
Focusrite Control 2 の Mixer ページ上部のタブにて、Mix A、Mix B など複数のミックスの表示を切り替えることができます。



各ミックスは入力ソースの組み合わせを個別に調整でき、必要に応じて別々の出力に送信できます。例えば Mix A をスピーカー出力用ミックス、Mix B をシンガー用のヘッドフォンミックスとして使用することができます。シンガーが自分の歌声のみをより大きなレベルで聴きたい場合は、Mix B のボーカルチャンネルのレベルを上げることでこれを実現できます。

各 Mix タブをクリックすると、目的のミックスを選択できます。選択したミックスは、任意の出力にルーティングできます。手順は以下の通りです：

1. **Routed to →**の横にある鉛筆アイコンをクリックします。
2. ミックスを出力したい**送信先**にチェックを入れます。

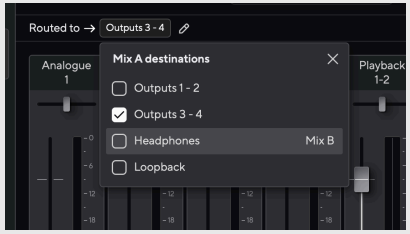


例えば、スピーカーが接続されている Outputs 1-2 とヘッドフォン出力の両方に Mix A を割り当てると、ヘッドフォンとスピーカーで同じミックスを聴くことができます。

3. をクリックすると、Mix destinations ポップアップが閉じられます。

ミキサーチャンネル上部にて、ミックスがどの出力にルーティングされているかを確認できます。ミックスの出力先が設定されていない場合、**No outputs assigned** と表示されます。

注記
各出力に割り当てることができるミックスは、1 つのみです。例えば、ヘッドフォン出力に Mix A と Mix B を同時に割り当てることはできません。送信先に既に別のミックスが割り当てられている場合、Mix destinations ポップアップの送信先の隣りに割り当て済みのミックス名が表示されます。既にミックスが割り当てられている送信先に新たにミックスを割り当てると、新しい送信先が上書きされて設定されます。

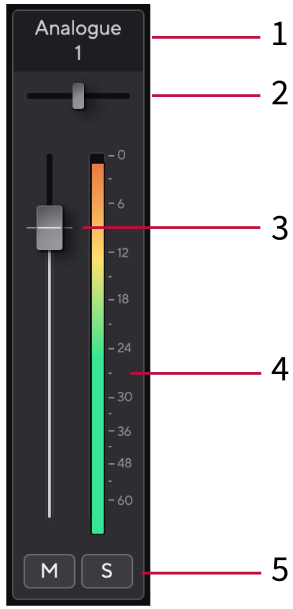


ループバックの送信先

作成した任意のミックスを録音したい場合は、送信先として **Loopback** を選択します。詳細はループバックの章をご参照ください。

ミキサーチャンネルを使用する

各ミキサーチャンネルは、様々な機能を備えます。

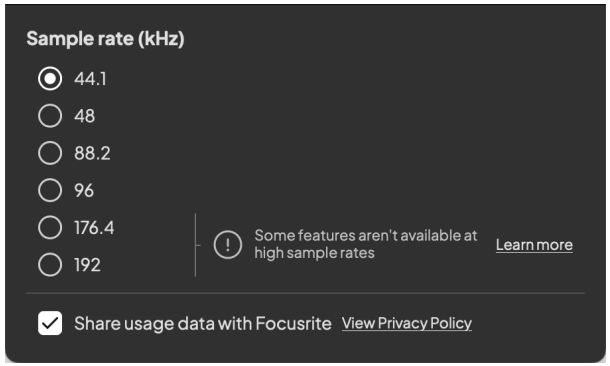


1. **ミキサーチャンネル名**
   ミキサー入力名が表示されます。
2. **Pan**
   モノラルチャンネルの定位をステレオイメージ内で左右に調整します。またはステレオチャンネルの左右バランスを調整します。デフォルトでは中心に設定されています。Alt、option ⌥ キーを押しながらクリックするか、ダブルクリックでリセットできます。
3. **フェーダー**
   送信先に送られる信号レベルを調整します。Alt、option ⌥ キーを押しながらクリックするか、ダブルクリックでリセットできます。
   フェーダーは、録音されるソースの信号レベルには影響しません。
4. **メーター**
   チャンネルレベルを dBFS 単位で表示します。緑色はレベルが良好、橙色はレベルが非常に高いことを示します。
   ステレオチャンネルでは 2 つのメーターが表示され、左右チャンネルのレベルを確認できます。
   メーターは、ポストフェーダーのレベルを表示します。つまりフェーダーの値がメーター表示に影響します。
5. **ミュートおよびソロ**
   ミュート - M ボタンをクリックすると、ミックス内でそのチャンネルが無音になります。ミュートを有効にすると、ミュートボタンが青色に点灯します M。複数のチャンルを同時にミュートすることができます。
   ソロ - S ボタンをクリックすると、ミックス内のその他のチャンネルが無音になります。ソロを有効にすると、ソロボタンが黄色に点灯します S。複数のチャンネルを同時にソロに設定することも可能です。このときソロでないすべてのチャンネルがミュートされます。
   ミュートとソロを同時に有効にすると、最後にクリックされたボタンが優先的に有効になります。

Focusrite Control 2 の設定

Focusrite Control 2 ウインドウ右上のリーダーアイコン⋯から、Preferences をクリックすると設定ページが表示されます。

設定ページでは、以下の項目を設定できます：



Sample rate (kHz)

サンプルレートとは、コンピュータが 1 秒間に録音を行うサンプル数のことです。サンプルレートが高いほど高音質になりますが、それに伴い録音データのサイズが大きくなり、より多くのハードディスク容量が必要となります。

多くの場合、レコーディングには 44.1kHz が十分以上の音質となります。

注記
以下の機能は、クワッドバンド（サンプルレート 176.4kHz および 192kHz）では使用できません。

- Air モード（Harmonic Drive）
- クリップセーフ

アナリティクス

このチェックボックスを使用して、利用状況分析を有効にし、改善 Focusrite Control 2 に役立ててください。詳細については、プライバシーポリシー をご覧ください。

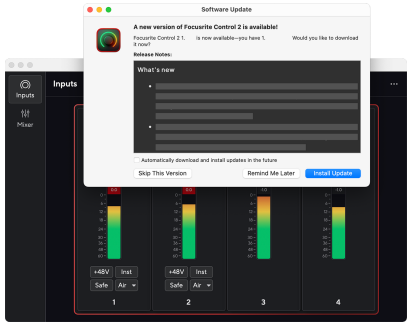
アップデート

Focusrite Control 2 のアップデート

Focusrite では、ユーザーの皆さまが Scarlett 4i4 を最大限に活用いただけるよう、新機能の追加や改善を施す Focusrite Control 2 のアップデートを臨時提供しています。

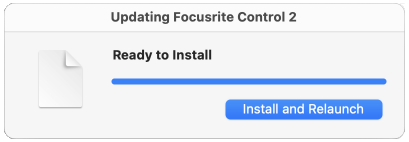
以下の 2 つの方法で、Focusrite Control 2 が最新バージョンであることを確認できます：

1. Focusrite Control 2 内でアップデーターを使用:
    1. Focusrite Control 2 を起動します。
    2. Focusrite Control 2 では、2 通りの方法でアップデートが可能です。
        a. アップデートが検出されると、ダイアログウインドウが自動的に表示されます。Install Update をクリックすると、アップデートが開始されます。



        b. お使いの Focusrite Control 2 が最新バージョンであるかを確認するには、アプリケーションウインドウ右上のリーダーアイコン⋯から、Check for updates をクリックします。
    3. アップデーターのダウンロードが完了すると表示されるポップアップウインドウで Install and Relaunch をクリックします。

Focusrite Control 2 のアップデート時、ソフトウェアがリセットされる前に以下のウインドウが表示されます。



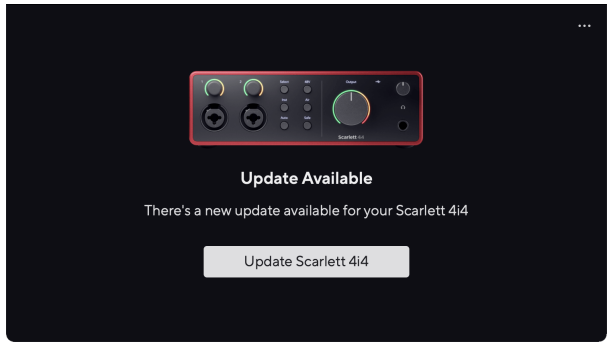
2. Focusrite のダウンロードページから Focusrite Control 2 をダウンロードします：
    1. フォーカスライトのダウンロードウェブサイトに移動します。
    focusrite.com/downloads
    2. ダウンロード Web サイトであなた Scarlett を見つけてください。
    3. お使いのオペレーティングシステム(Windows または Mac)用にダウンロード Focusrite Control 2 してください。
    4. コンピューターのダウンロードフォルダーを開き、 Focusrite Control 2 インストーラーをダブルクリックします。
    5. 画面の指示に従ってインストール Focusrite Control 2 します。 Windows 用にインストール Focusrite Control 2 する場合は、コンピュータが再起動します。
    6. まだ接続していない場合は、インターフェイスを USB ケーブルでコンピューターに接続します Scarlett 。
    7. Focusrite Control 2 を起動すると、Scarlett が自動的に認識されます。

Scarlett のアップデート

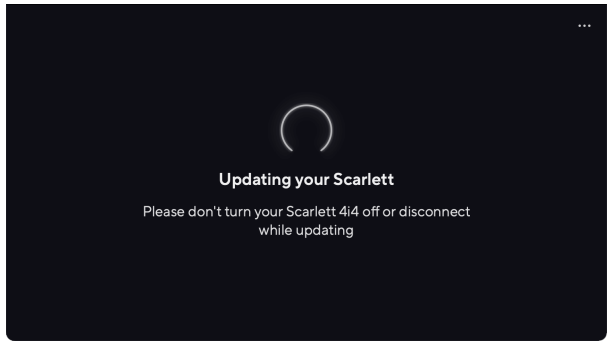
Focusrite は、お客様が Scarlett を最大限に活用いただけるよう、新機能の追加や改善を施す Scarlett 4i4 のアップデートを臨時提供しています。Scarlett 4i4 のファームウェアは、Focusrite Control 2 からアップデート可能です。

Scarlett をアップデートするには：

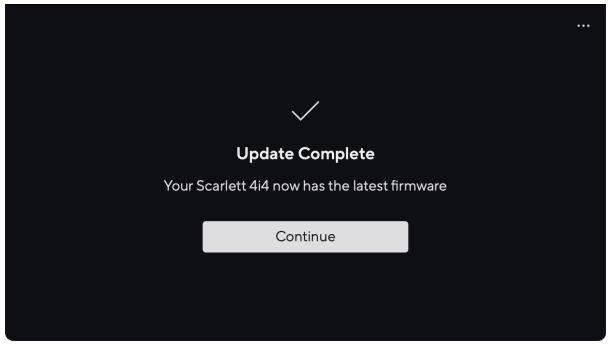
1. Focusrite Control 2 を起動します。
   アップデートが利用可能な場合は、Focusrite Control 2 起動時にメッセージが表示されます。



2. Update Scarlett 4i4 をクリックします。
   Focusrite Control 2 がアップデートを開始します。アップデート中は Scarlett 4i4 の接続を取り外さないでください。



3. アップデート完了後、Continue をクリックします。



以上で Scarlett 4i4 は最新版にアップデートされ、通常通りご使用いただけます。

仕様

以下の仕様は、お使いの機器が Scarlett 4i4 で使用できるか確認するための参考情報となります。通常 Scarlett 4i4 は、ほとんどの機器で使用可能なため、これらの情報に関しての知識がなくても問題ございません。

性能仕様

実測値は、可能な限り AES17 に準拠して測定しています。

対応サンプルレート	44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz
ビット深度	24 ビット

マイク入力	
周波数特性	20Hz - 20kHz ± 0.06dB
ダイナミックレンジ (A 特性)	116dB
THD+N	-100dB (最小@ 8dB ゲイン)
ノイズ EIN (A 特性)	-127dBu
最大入力レベル (最小ゲイン)	+16dBu
ゲインレンジ	69dB
入力インピーダンス	3kΩ

ライン入力 (ゲイン可変)	
周波数特性	20Hz ~ 20kHz ±0.05dB
ダイナミックレンジ (A 特性)	115.5dB
THD+N	-100dB (最小@ 8dB ゲイン)
最大入力レベル (最小ゲイン)	+22dBu
ゲインレンジ	69dB
入力インピーダンス	60kΩ

ライン入力 (ゲイン固定)	
周波数特性	20Hz - 20kHz ± 0.02dB
ダイナミックレンジ (A 特性)	115.5dB
THD+N	-105dB (最小@ 8dB ゲイン)
最大入力レベル (最小ゲイン)	22dBu
入力インピーダンス	60kΩ

楽器入力	
周波数特性	20Hz - 20kHz ±0.15dB
ダイナミックレンジ (A 特性)	113dB
THD+N	-80dB (最小@ 8dB ゲイン)
最大入力レベル (最小ゲイン)	+12dBu
ゲインレンジ	62dB

楽器入力	
入力インピーダンス	1MΩ

ライン出力 (バランス)	
周波数特性	20Hz - 20kHz ± 0.02dB
ダイナミックレンジ (A 特性)	120dB
THD+N	-112dB
最大出力レベル	+16dBu
出力インピーダンス	100Ω

ヘッドフォン出力	
周波数特性	20Hz - 20kHz ± 0.1dB @ 33Ω / 300Ω
ダイナミックレンジ (A 特性)	112dB @ 33Ω
	115dB @ 300Ω
THD+N	-99dB @ 33Ω (最小)
	-108dB @ 300Ω (最小)
最大出力レベル	2.5dBu (33Ω)
	10dBu (300Ω)
最大出力電力	32mW (33Ω)
	22mW (300Ω)
出力インピーダンス	11Ω

物理的特性と電気的特性

アナログ入力	
コネクタ	フロントパネル Neutrik® XLR コンボコネクタ x 2
	リアパネル Neutrik® 6.35mm（1/4 インチ）TRS ジャックソケット x 2
マイク/ライン切替	自動
ファンタム電源（48V）	フロントパネル **48V**（ファンタム電源）ボタンまたはソフトウェア内スイッチ
ライン/楽器切替	フロントパネル **Inst** ボタンまたはソフトウェア内スイッチ
オートゲイン	フロントパネル **Auto** ボタンまたはソフトウェア内スイッチ
クリップセーフ	フロントパネル **Safe** ボタン
‘AIR’ 機能	フロントパネル **Inst** ボタンまたはソフトウェア内スイッチ

アナログ出力	
バランス出力	リアパネル Neutrik® 6.35mm TRS ジャックソケット x 4
ヘッドフォン出力	フロントパネルステレオ 6.35mm（1/4 インチ）TRS ジャックソケット
メイン出力レベルコントロール	プリフェーダー出力レベルメーターつきフロントパネルアナログコントロールノブ
ヘッドフォンレベルコントロール	フロントパネルアナログコントロールノブ

その他の入出力	
USB	データ伝送および電源用 USB 2.0 タイプ C コネクタ x 1 -
	1.5A
	USB タイプ C コネクタ x 1 - **5V DC**
	7.5W

フロントパネルのインジケーター	
チャンネル選択	白/緑 LED（チャンネル **1** および **2**）
Select ボタン	白/緑 **Select** LED
48V	白/緑 **48V** LED（選択チャンネルによる）
Inst	白/緑 **Inst** LED（選択チャンネルによる）
Auto	白 **Auto** LED（オートゲインの開始）
クリップセーフ	白/緑 **Safe** LED（選択チャンネルによる）
Air モード	白/緑 **Air** LED（選択チャンネルによる）
出力レベルメーター	**Output** ノブ周囲の 3 色 LED リング
USB	緑 USB LED
ダイレクトモニター	3 つのステータス表示 Direct LED

重量および寸法	
重量	798g（1.76lbs）
高さ	60mm（2.36 インチ）
幅	180mm（7.09 インチ）
奥行	130mm（5.12 インチ)

動作環境	
動作気温	最大動作温度：40°C / 104°F

4i4 チャンネルの順序

入力チャンネル

入力	Channel
1	入力 1（Mic/Line/Inst）
2	入力 2（Mic/Line/Inst）
3	入力 3（Line）
4	入力 4（Line）
5	Loopback 1
6	Loopback 2

出力チャンネル

出力	Channel
1	Output L
2	Output R
3	Line Output 3
4	Line Output 4
5	ヘッドフォン L
6	ヘッドフォン R

通知

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するご質問は、以下の Focusrite ヘルプセンターへアクセスしてください。 support.focusrite.com.

著作権および法定通知

クレジット

Focusrite は、本製品のために尽力してくれた以下の Scarlett 4th Gen チームメンバーに感謝いたします。

Aarron Beveridge、Adam Watson、Adrian Dyer、Adrien Fauconnet、Alex Middleton-Dalby、Alice Rizzo、Alistair Smith、Andy Normington、Andy Poole、Andy West、Arne Gödeke、Bailey Dayson、Bamber Haworth、Bash Ahmed、Ben Bates、Ben Cochrane、Ben Dandy、Benjamin Dunn、Bran Searle、Callum Denton、Carey Chen、Cerys Williams、Chris Graves、Dan Clarke、Dan Stephens、Dan Weston、Daniel Hughley、Daniel Johnson、Danny Nugent、Dave Curtis、David Marston、Derek Orr、Ed Fry、Ed Reason、Eddie Judd、Ellen Dawes、Emma Davies、Flavia Ferreira、Greg Westall、Greg Zielinski、Hannah Williams、Harry Morley、Ian Hadaway、Isaac Harding、Jack Cole、Jake Wignall、James Hallowell、James Otter、Jason Cheung、Jed Fulwell、Jerome Noel、Jesse Mancia、Joe Crook、Joe Deller、Josh Wilkinson、Joe Munday、Joe Noel、Jon Jannaway、Julia Laeger、Kai Van Dongen、Keith Burton、Kiara Holm、Kieran Rigby、Krischa Tobias、Lars Henning、Laurence Clarke、Loz Jackson、Luke Piotrak、Luke Mason、Marc Smith、Mark Greenwood、Martin Dewhirst、Martin Haynes、Mary Browning、Massimo Bottaro、Matt Morton、Matt Richardson、Max Bailey、Michalis Fragkiadakis、Mick Gilbert、Mike Richardson、Nicholas Howlett、Nick Lyon、Nick Thomson、Oliver Tapley、Olly Stephenson、Paul Chana、Paul Shufflebotham、Pete Carss、Pierre Ruiz、Richard Carvalho、Richard Walters、Robert Blaauboer、Robert Mitsakov、Ross Chisholm、Sam Lewis、Samuel Price、Sandor Zsuga、Sebastian Heinz、Simon Burges、Stefan Archer、Stefan Elmes、Steve Bush、Stratis Sofianos、Taavi Bonny、Taren Gopinathan、Tom Carter、Tom Haines、Tony Pow、Valeria Cirillo、Will Hoult、Will Munn、Vidur Dahiya、Wade Dawson、Zih-Syuan Yang

著者はエド・フライ。